

210-74-15 (B)

農(発)49-3(C)  
農業協力テキストブックNo.3

Proyek Tani Makmurの進め方  
—Ciheaをモデルとして—

海外技術協力事業団  
農業協力部

8  
17  
D  
ARY

国際協力事業団

受入 月日	'87. 3. 26	108
登録 No.	08383	80.7
		AD

## は し が き

西部ジャワ食糧増産技術協力事業は、インドネシア政府の食糧増産計画の推進に協力するため、昭和43年5月より第一次3カ年協力、昭和46年5月より第二次3カ年協力を経て、昭和49年5月通算6年間の協定による協力を終え、現在コロンボランによるフォローアップ協力に入っている。農業技術協力に限らず、技術協力の究極のねらいは専門家によつて移転された技術が広く、その国に波及定置することにあるという観点に立つて、当該計画が終了するにあたり派遣専門家のインドネシアにおける稲作技術指導上の体験、試験、調査等にもとづき、日本語、英語、インドネシア語の3カ国語でテキストを集大成した。この小冊子はその日本語版であるが、技術協力事業でいよいよ重要性を深めているインドネシアに今後派遣される専門家、調査員並びに関係各位の指針ともなれば幸いである。また、技術は日進月歩し、社会経済状勢も日々変化しているので、将来必要に応じて、後発農業協力事業派遣専門家の協力を得て改訂していく考えである。

当該技術協力事業推進に6カ年にわたり従事され、この小冊子作成の原動力となられた管生数馬団長をはじめ、それぞれの分野を担当された専門家諸氏に対して厚くお礼申し上げます。

昭和49年6月

海外技術協力事業団

農業協力部長 渡 辺 滋 勝

JICA LIBRARY



1055769[2]

## ま え が き

Tani Makmur Project の目的は農家の所得、生活の向上であるがこの進め方は自然条件、作目、耕地規模、風俗、習慣等により当然異なる。従って夫々の地帯の実態にあった方法を見出すために創意工夫が必要であるとともに長期計画をたて根気よく推進せねばならない。

当チームが協力しているチヘヤ地区は水田単作地帯で耕地規模は平均0.4 ha/農家と小さいので次の三点に重点を置き農家の所得向上を図ることにした。

- (1) 経済的増産技術の指導（稲作）
- (2) 流通の合理化（農協育成）
- (3) 余剰労力の活用

(1)については5 ha 単位のDemo-Farm を多数設け5 シーズン濃密指導した結果、指導者も農家も乾燥粃6 ton/ha の収量を得る自信を得、周辺農家に普及している。

(2)については現状から見て最初から農協育成することは困難なので先ず共同による有利性を体験させるために農家の小集合体（Kelompok）数個の集合体（Himpunan Tani）を作り小型精米機を貸付け指導を行っている。1974年度はマッシュルーム、養魚等のHimpunan Tani の指導を行う予定である。これらの経験により農家が農協育成の必要を痛感した時点で上記Himpunan Tani の集合体をもって農業協同組合を設立することになっている。

(3)については農家の余剰労力を有利に活用するため土地を多く要しない作物例えばマッシュルーム、鶏、あひる、魚等を導入し濃密指導するとともに共同販売、共同購入（ひな、稚魚、菌等）により所得の向上を図ることにしている。

Tani Makmur Project は長年月を要し、しかも初めての事業であるから

今後試行錯誤を続けるであろう。我々の体験（約3年）が同種事業に少しでも役立てば幸いである。

西部ジャワ食糧増産プロジェクト

管 生 数 馬

## 目 次

はじめに .....	1
1 Proyek Tani Makmur の概念 .....	1
2 Proyek Tani Makmur の地区選定の条件 .....	3
2-1 地理的、社会的条件 .....	3
2-2 面積 .....	3
2-3 leader .....	4
3 基本計画の樹立 .....	4
3-1 事前調査 .....	4
3-2 基本計画書の作成 .....	5
4 指 導 .....	6
4-1 指導態勢 .....	6
4-2 Tani Makmur 推進委員会 .....	7
4-3 P.P.S.、P.P.L .....	7
5 事業実施 .....	8
5-1 事業実施順序 .....	8
5-2 Kelompok / Demo Farm .....	8
5-2-1 Kelompok に対する指導 .....	9
5-2-2 評 価 .....	10
5-2-3 醸 金 .....	10
5-2-4 Kelompok と Bimas .....	11
5-3 Himpunan Tani .....	11
5-3-1 地区の選定 .....	11
5-3-2 Himpunan Tani の規約 .....	12
5-3-3 資金(機材を含む)援助 .....	12
5-3-4 Himpunan Tani に対する指導 .....	13
5-3-4-1 Himpunan Tani 結成準備委員会 .....	13
5-3-4-2 Himpunan Tani 発足後の指導 .....	15
5-3-4-3 Himpunan Tani と Kelompok .....	16

5-4	教育・研修・集会 .....	16
5-4-1	Kelompok .....	16
5-4-1-1	Ketua, Sekretaris 研修 .....	16
5-4-1-2	Operator 研修 .....	16
5-4-1-4	Ketua, Sekretaris 会議 .....	17
5-4-2	Himpunan Tani .....	17
5-4-3	その他.....	17
5-5	Unit Himpunan Tani .....	18
5-5-1	設立準備委員会 .....	19
5-5-2	定 款 .....	19
5-5-3	事 業 .....	19
5-5-4	指 導 .....	19
5-5-5	組合費 .....	19
5-6	農協の設立 .....	20

#### 添 付 資 料 目 次

資料1	Proyek Tani Makmur "Cihea" に於ける Demo Farm 評価採点法
資料2	Demo Farm 評価のための1因子としての分散の計算
資料3	1972/73 雨期作 Cihea Demo Farm 実施に当たっての注意事項
資料4	1971/72 雨期作 Proyek Tani Makmur Tjihea 内に於ける Demo Farm 成績についての報告
資料5	1972/73 年雨期作 Demo Farm 成績に関する報告
資料6	Himpunan Tani に関する報告
資料7	Himpunan Tani 規約案 ( Cihea に於ける実例 )
資料8	Tani Makmur Cihea の今後の進め方

はじめに

我々がProyek Tani Makmur "Cihea"に関係したのは1971年9月から現在4 seasonを迎えておる。

Proyek Tani Makmurは毎期間に完成出来るものではなく、Ciheaに於てもうやく第1段階を終り第2段階に入ったばかりである。

我々の任期は1974年5月28日までであるのでこの完成を見ずに帰国しなければならないのは非常に残念であるが既に経験した4 seasonの結果から期間は少々かかってもこの完成の見通しは樹てることが出来た。あとはIndonesia側のCaunter Parls諸君の努力と州政府並に普及局のこれに対する援助に期待するのみである。

Proyek Tani Makmurの進め方には必ずしもCiheaのやり方が最善の方法であるかどうかはわからない。外にも色々方法があると思うがここでは我々の過去の経験を生かしてCiheaをModelとしてProyek Tani Makmurの進め方について本書を作成する次第である。この書が今後のProyek Tani Makmurの進め方の参考になれば幸である。

西部ジャワ食糧増産プロジェクト 船田 正 明  
今 西 功

## 1 Proyek Tani Makmur の概念

Tani Makmurとは農民の経済状態を良くし生活水準を上げ農村全体の生活環境を良くすることであろう。これは云い替えればその地域の農民全員が参加する能動的な農協を組織することであろう。

農民の経済状態を良くするという事は基本的には生産を向上させることであるが単に生産を上げただけでは必ずしも経済が良くなると云えない。増産してもその単価が下っては何にもならない。増産されたものを如何にして高く売り収入を増加させるかということが大切である。そこにManagementの重要性が出て来る。

現在のIndonesiaの農民の経済状態は決して良いとは云えない。しかし農民には向上しようという意欲は充分あるのであるから或るきっかけをつかまえて1歩上昇させることが出来たならこれを土台として2歩3歩と上昇させることはさしてむづかしいことではないであろう。問題は第1歩である。

Proyek Tani Makmurは農民に増産技術を教えると共に先ずこの第1歩となるきっか

けを探し与え農民をして自力で第2歩第3歩と歩ませて生活水準をあげ農村生活を都市のそれに劣らないものにする Proyek であろう。

これには農民が個々に勝手なことをしては実行出来ない。多くの農民が力を合せてはじめて出来ることである。

これを雑草に例えて見れば1本の雑草は子供の力でも簡単に切ることが出来るがこれを20本も集めて1本の太い草にすれば例へて大人が2人でも仲々切るとはむづかしい。更に1,000本2,000本と集めて1本の綱にすれば10 ton トラックでも引くことが出来る。

Proyek Tani Makmur 地区内の農民が力を1つにして自らの生活水準の向上に努力すればその成功は明かである。協同作業をすることが出来るか否かがこの Proyek の成功の鍵となる。

Proyek Tani Makmur の進め方は Cihea で行なわれている方法が唯一のものではない。Cihea の場合は①面積が限られていて経営面積を拡大する余裕はない。②水田のみの地帯である。③その上1戸当りの耕地面積が少い。との条件の下で採用した方法である。

仮りにもし未墾地がまだ残されている場合或は開田する余地があるのなら農民の収入を上昇させるには先づ耕地(水田)面積の拡大がよりやり易い方法として取りあげることが出来るであろうし又畑を拡大して有用な換金作物を採用することも出来るであろう。そしてそのために入手が不足するならば機械を導入するということも考えられる。

従って Proyek Tani Makmur というのはその存在する地域によって内容は異にするが目的とする処は農民の生活水準向上でありこれが唯一のものである。

この目的達成のためには前述のように農民が各個ばらばらになってはむづかしい。個々では力の弱い農民が1体となり力を合せることが必要である。即ち最終的には能動的な農業協同組合を組織することが必要でありその経過としては小単位の農業実行組合を組織することにより農民の力を1本とすることがこの Proyek Tani Makmur の成功の最大の要因である。

Cihea に於ける Proyek Tani Makmur は前述の通りの自然社会的条件の下に採られた方法でありそのために水稻の外に Rice Mill を設置したり Kios (配給所) を考えたり又養魚或は草の栽培等土地を大面積必要としないで現金収入を得る事業を加味しようとするものであるから立地条件の類似した地方に於て行ふこの種の事業のためには大いに参考になるであろうし又立地条件の異なる地方であっても考え方や進め方等について或る程度の参考になるものと考えられる。

## 2 Proyek Tani Makmur 地区選定の条件

### 2-1 地理的社会的条件

Proyek Tani Makmur を行う目的は農民の生活水準向上にあるのであるから地区は当然農村地帯であることが第1条件である。又地区内の地理社会的条件に甚しい差のないことが必要である。

Indonesia の農業は大別して農民農業 (Pertanian Rakyat) と企業農業 (Perusahaan Perkebunan) とに分けられる。我々が Proyek Tani Makmur を行なわんとするのは農民農業 (Pertanian Rakyat) 地帯に対してであり企業農業 (Perusahaan Perkebunan) はその規模資本等から見て考え方が全く別のものである。

農民農業は更にその型態から水田農業、畑作農業、園芸農業に大別される。しかしこれらの複合農業も考えられる。即ち我がCihea のような水田単作地帯、Cianjur 県 Cipanas 附近のような水田高冷地そさい地帯、Lembang のような畑作高冷地そさい地帯、或は普通作畑作地帯というように地理的、社会的条件でその主作物が違って来る。

これらの地帯ではそれぞれに見合った事業実施の方法があるべきで水田単作地帯の方式をそのまま畑作地帯に適用することはむずかしい。従って Proyek Tani Makmur 地区選定に当ってはこのような異種の地帯を1本とした地区を決めることはその後の実施方式に混乱を来し成功がむずかしいのでこのような地方では2つ以上のProyek地区としてそれぞれに見合った別々の方式を採用した方がよい。

### 2-2 面積

1 Proyek Tani Makmur 地区は面積が大きくなればなるほどその経済力は強くなるが反面リーダーの統制指導力の強大なものを必要とする。

日本に於ける農協発展の歴史を見ると最初は町村に1ヶ所或は2~3ヶ所の農協が出来これ等が十分に活動して後その経済的必要性から各市町村1ヶ所にまとまりその後市町村の合併に合せて統合され大きくなっている。そして各県単位に連合会を作り、又全国を一つにした連合会を組織している。そのためその力は非常に強大となっている。

Indonesia に於てはこのような組織はまだ充分発達していないので Proyek Tani Makmur の地域を始めから大きなものにするには有利性よりむしろ弊害の方が大きいと思われるのではじめはあまり大きなものとしないう方がよい。

現在CIndonesia で実行されているB.U.U.D 或はK.U.D程度即ち600~2000 ha 位が最初の面積として適当であろう。従って広大な地域でこの事業を行うときはこれを

幾つかのProyekに分けて行方が良い。即ち仮にある広大な面積の地方でこの事業を行うときは先ずこれをA、B、……nのblockに分けA Tani Makmur、B Tani Makmur ………n Tani Makmur というように仮の名前をつけて各blockの中でそれぞれ事業を行方が良い。そして又実施後はA、B ………n blockの事業成績につき毎年評価を行い各block間に競争意識を持たせ事業促進の一助とするが良い。又将来この事業が完成しよく運営されるようになったらこれを統合してUnitにすることがより強力なものとなり有効である。

### 2-3 leader

Tani Makmur事業を成功させるためにはその地域内に居る農民1人1人がTani Makmurを意識しそれに向けて力を合せることが絶対に必要である。しかし何千人もの農民1人1人を対象としての指導は実際問題として不可能であるのでgroup指導ということが主眼となる。このためには10～20人の小group (Kelompok)を作る必要があるがこのleaderに有能な積極的な行動力のある人を求めることが出来るか否かはその成功するか否かのKey pointになる。Ciheaの例によって見てもKelompokでの成績の良否はそのleaderの良否に比例している。成績の良くなかったKelompokがleaderが変わったら見違えるように良くなった例もある。

leaderとなるべき人は単に篤農家というだけでなく附近の農民の信望があり自分のことだけを考えず絶えず自分のkelompokの人々のことを考え且つ指導力、実行力を持っていなければならない。

## 3 基本計画の樹立

### 3-1 事前調査

或る地方でProyek Tani Makmurを始めようとするときは事前に基本計画書を作成し事業はこの計画書に従って実施する。この基本計画書を作成するためにこの地方の自然的条件、社会的条件を事前に調査する必要がある。

この調査は計画立案者が直接現地にて

- (1) 自然的、社会的条件が単一地区として適当かどうか。
- (2) この事業の中心作物は何にすべきか。
- (3) 適当なleaderを容易に得ることが出来るか。

等について調査する。

この調査の具体的な調査項目は

- (1) 地形（平坦地、丘陵地等、水田の場合は用排水状況）
- (2) 面積（広大な場合は何処を境界として地区を分けるか）
- (3) 諸統計（過去数年間の村別主要作物別面積単収、村別農家戸数、人口、田畑その他別面積、過去数年間の作物別被害状況、Rice Millその他の農産物加工場の位置数及その実績、月別降雨量）

等である。主要作物にはその地方で将来予想される Tani Makmur の主作物は必ず含めること。例えば水田単作地帯で将来水稲を主作物とするときは水稲、畑作地帯で豆、トウモロコシ等を主作物とするときは豆、トウモロコシ、高冷地でそさいを主作物とするときはそさい類等である。

#### (4) 市場（Pasar）

将来 Tani Makmur で生産されたものを売る市場（Pasar）となるべき主要都市の大きさ（人口等）そこまでの距離（もし都市が2つ以上あるときはそのすべてについて調査する）

#### (5) leader

前述したように Tani Makmur 事業では leader に良い人を得られるかどうかは成功か否かの鍵となるのでこの点も忘れないで調査する。

この調査ははじめてその地方に調査に行った人が直ちに調査出来るものではない。又必要な数全部を調べることも不可能であるが少く共事業開始当初に必要な leader については調査しておく必要がある。これには村長、郡長或はその村を担当する P.P.L の協力を求めることが必要である。

### 3-2 基本計画書の作成

上記調査の結果に基づいて Tani Makmur 基本計画書を作成するのであるが先ず第1にこの事業を単一の Tani Makmur 事業とするか幾つかの block に分けて実施するのかを決める。

その後何を基本作物とするか又何を複作物とするかを決定する。又その生産物はどう処理するか何年で完成させるか等の大要を決定する。

Proyek Tani Makmur "Cihea" では基本作物は水稲で複作物はマッシュルーム、養禽（アヒル）養魚等を加味し農協完成時までの各期別計画は下表の通りとした。

尚 Demo Farm , Himpunan Tani , Unit Himpunan Tani については別に説明する。

期 別	Demo Farm	Himpunan Tani	Unit Himpunan Tani
1971/1972年：雨期	16		
1972年：乾期	17		
1972/1973年：雨期	31	1	
1973年：乾期	新規 3	2	
1973/1974年：雨期	" 8	2	
1974年：乾期	" 5	1	
1974/1975年：雨期	" 7	2	1
1975年：乾期	" 7	2	
1975/1976年：雨期	" 12	2	1
1976年：乾期	" 8	2	1
1976/1977年：雨期	" 4	3	2
1977年：乾期	} Unit Himpunan Tani の強化		
1977/1978年：雨期			
1978年：乾期			
1978/1979年：雨期	農協結成		
合 計	85	17	5

#### 4. 指 導

##### 4-1 指導態勢

Proyek Tani Makmur の目的がその地方の農民の生活水準を向上するために能動的な農協を結成させることにあるからには必要なすべてのものを政府から与えられたのでは農協を組織することは出来てもこれが能動的なものとはならずその目的達成に至らない結果となることは Indonesia の過去の経験からも明かである。

農民各々がTani Makmurの目的を意識しそのためには何をすべきかを目覚しそれを leader がまとめて行くことが大切である。即ち最初は小さな group から1歩1歩積み重ねていってこそ能動的な組織が出来上るのである。従って短期間にこの事業を完成することは不可能である。

しかし乍らこのことは農民の意志のおもむくままに放置しておくということではない。このようなことに経験のない農民を放置しておいてはいつまでたってもその成果は望み得ない。

適当な助言と指導が必要である。

このように農民に生活水準向上の意慾を持たせ又それを leader が良くまとめて行くように仕向けるための指導態勢が必要である。このためには Propinsi, Kabupaten 及現場で直接指導する P.P.S. 及び P.P.L. で委員会を作り指導方針手段等につき協議し Tani Makmur の進むべき方向を常に明確に認識し Tani Makmur の歩む道を間違いないように現場の P.P.S., P.P.L. を通じて指導することが必要である。P.P.S. 及び P.P.L. は又常に現場に於て leader と接触し leader の良き adviser とならなければならない。

このように Propinsi, Kabupaten, P.P.S., P.P.L. が 1 体となった指導態勢こそ Proyek Tani Makmur には絶対必要なものであり Propinsi 或は Kabupaten が第 3 者的立場で P.P.S., P.P.L. 或は Tani Makmur の成果を評価すれば良いというような考え方は捨てて指導的立場にある全ての人々が直接の責任者であるという考え方を持ってほしい。

勿論直接農民或は leader に接し指導するのは P.P.S., P.P.L. であり他の人々の意見は P.P.S., P.P.L. を通じて leader に達する。

#### 4-2 Tani Makmur 推進委員会

Dinas Pertanian Propinsi (州普及局)の普及課長は Dinas pertanian Kabupaten (県普及所)の所長を委員とし普及栽培経済等の Staff, Tani Makmur を担当する P.P.S., P.P.L. を以って組織し Tani Makmur に対する適格な指導指針を協議し担当 P.P.S., P.P.L. のよき助言者となり又 P.P.S., P.P.L. より報告された Tani Makmur 推進上の諸問題について検討し積極的にその解決に対する方策を検討し実行する。

#### 4-3 P.P.S., P.P.L.

Tani Makmur を指導する P.P.S., P.P.L. は一般普及事業とはその性格が違ふ。即ち一般普及では作物の栽培技術の指導を行えば良いが、Tani Makmur では単にそれだけではない。増産が Tani Makmur の基本であるので勿論栽培技術の指導は必要であるがその他経済的な指導も行なわれなければならない。例えば Rice Mill の設置運営、養魚 Kios の運営等各方面に亘る経済技術 (Management) の指導も必要となる。

従って担当 P.P.S., P.P.L. はよく勉強して leader の良き Adviser となるべく心掛けなければならない

## 5. 事業実施

### 5-1 事業実施順序

基本計画書が出来たらそれに従ってTani Makmur事業が実施される。

前にも述べた通りTani Makmurの最終的の目的は農民の意志による能動的な農協を育成するにあるがこの為には第1段階として最少単位の生産組合としてKelompok の結成を行う。Kelompokの段階では増産のための栽培技術の習得と協同作業の習得に重点が置かれる。2-3 seasons経過してこれ等の技術を充分習得したならば数KelompokをまとめてHimpunan Tani を組織する。これが第2段階である。

Kelompokの段階では経済的なものの習得はないがこのHimpunan Taniの段階では簡単な経済行為を含めた単純な事業が加味される。即ちRice Millの設置運営或は養 他による生産物の共同出荷等である。Himpunan Taniを数 seasons 経過して経済行為に或る程度習熟したら数Himpunan Taniを統合してUnit Himpunan Taniを結成する。Unit Himpunan Tani の段階ではHimpunan Tani の段階より経済力も増加するので経済行為も若干複雑化する。Unit Himpunan Tani を数 seasons 経過すればこれを統合して地区1本の農協を結成することは容易である。

かくして単純な段階より農民自身を以って習得して来た技術、経済力を以って結成した農協は農民の意志を反影し技術的にも経済的にも能動的な農協となるであろう。

### 5-2 Kelompok / Demo Farm

Proyek Tani Makmur の実施に当っては先づ最初にKelompok を組織する。

前にも述べたようにProyek Tani Makmur の指導は農家1戸1戸を対象として行うことはその農家の数からいってもむづかしく、又協同作業等の指導のためにも生産基本単位としてKelompok の結成が必要である。

Kelompok結成の方法としては2通りある。即ち属人的(農民の住居を重点とした)と属地的(耕地を重点とした)とである。前者はその農家の住んでいる部落単位にKelompokを結成することであり又後者は耕地のblock毎にKelompokを結成することである。前者の場合は住居が1部落にまとまっているがその耕地は1ヶ所にまとまらず分散する。又後者の場合は耕地は1ヶ所にまとまっているが住居が1部落にまとまっているとは限らない。住居が1部落にまとまっていて且つ耕地が1ヶ所に集団していることが最も望ましいが実際の場合こういう例は殆んどない。

それではKelompok 結成の場合前者と後者とどちらが良いか?各々1長1短あるが

Tani Makmur の Kelompok 結成は栽培技術の指導の外協同作業の指導を重点とし且つ新技術の Demonstration の必要もあるので耕地が 1ヶ所にまとまっている方が良いので出来れば後者の方が良い。

又 Kelompok の大きさはどの程度が良いかはその地方の条件によって必ずしも一定しないが大体 3 - 5 ha ( 6 ~ 15 人 ) 位がまとまり易いと思われるので最初はこの位の単位で Kelompok を結成するのが良い。

Kelompok は生産の最少単位として結成し増産のための栽培技術或は協同作業の model ともなるので Demonstration の意味も大きい。Cihea に於てはこの耕地の block を Demo Farm と呼んでいる。

Kelompok の数は最終的には Tani Makmur の地域の大きさによっても同一ではないが事業着工当初からあまり多く結成することは指導上からも適当でない。着工第 1 年目は特に最初のことでもあり P.P.L. も又 Ketua ( 組合長 ) も未熟であるので大体 10 数ヶ所とする又その配置も将来のことを考えて Tani Makmur 地区内に適当に分散しておく方が良い。この第 1 年目の Kelompok は次 seasons から増設される Kelompok の Demonstration としても重要であり又将来 Tani Makmur の核ともなるものであるから立地条件の良い処で優良な Ketua を選出出来る処を選んで設置すると共に P.P.L. の指導も充分に行い失敗しないように注意することが必要である。

Kelompok は第 2 seasons から順次その数を増加して行く。この増加に当っては将来 Himpunan Tani を結成するに都合の良いように場所を選んで設置する。又既に結成された Kelompok は Ketua 始め組合員が技術を習得し成績も良く運営出来るようになったら附近の農家の希望者もその中に包含し除々にその面積を拡大する。しかし Kelompok はあまり大きくしない方が良い。大体 10 ha ( 25 ~ 30 人 ) 位が限度であろう。

Cihea の Kelompok には Ketua , Sekretaris の 2 名の役員と Operator ( 農機具の ) 2 名が居り Ketua , Sekretaris 及 Operator は Perjan Tani Makmur " Cihea " でその為の研修を受けてゐる。

#### 5 - 2 - 1 Kelompok に対する指導

Kelompok は Tani Makmur 中の生産最少単位である。又 Tani Makmur 事業の第 1 段階であるからこの段階に於て Tani Makmur の趣旨を徹底させることが Tani Makmur 事業を成功させる基本であるから P.P.S., P.P.L. はよく指導して Ketua を通じて組合員にこの趣旨を徹底させなければならぬ。

又主要作物栽培技術並に協同作業についてはこの段階で指導する。特に協同作業は農民の力を統合する為の基本的なものでありこの成否は将来 Tani Makmur の成否即ち能動的農協結成の成否に大きく影響する。

Kelompok に於ける協同作業は①用排水路の改修、②協同苗代、③協同防除等であるが実質的な農作業を伴わないものでも例えば組員間の栽培技術の優劣は必ずあるものであるから常に Ketua を中心とした組員同志の栽培技術に対する検討のための集会或は直接圃場に於ての援助等もこの中に含まれる。

増産は単に特定の農家例えば Ketua のみが達成することでは Kelompok 結成の意味のない組員全員の level up でなくてはならない。

別紙Ⅲは Tani Makmur Cihea に於て Kelompok , P.P.L. に対して示した注意事項である。

#### 5-2-2 評 価

各 Kelompok の season 毎の成績はそれぞれ評価して次の season 或は今後の参考とする必要がある。

Kelompok の評価は多収穫競技会の評価ではない。従って収量結果のみを評価することは適当でない。耕起、育苗、本田管理、収穫と農作業並に醸金まで一貫して評価する。特に収量については単に平均単収のみを評価することなく Kelompok 内の各農民の単収の分散も併せて評価することが必要である。この為に Cihea に於ては全組員は必ず 1ヶ所の標本調査を行う。又その耕地面積が 20 a 以上の農家については各 20 a 毎に 1ヶ所標本を採った。

Cihea に於ける評価の要領及結果の 1部を別紙 I、II、IV、V に掲載する。

#### 5-2-3 醸 金

Kelompok の各組員の技術が向上し収穫が増加したら各組員は若干の穂を醸出して Kelompok の基金を作る。この醸出穂の量は出来るだけ組員均等とし又各組員が容易に醸出出来る量とすること。例えば各 season 各々 50～100 Kg の程度とする。勿論その量には多いほど Kelompok の基金が多くなり今後 Himpunan Tani 結成の時のためにも望ましいがしかし各組員の負担があまり大きいと醸出に無理が出来て組員の中には醸出出来ないものも出来て来る。醸出穂の量は組員会議で検討し各組員が喜んで醸出出来る程度とすること。

この醸出穂は一括して貯蔵して穂の価格の高くなったときに売却して金で貯金しておき Kelompok の基金とする。

基金は銀行に貯金しその金額は必ず組合員各自に明示し、組合員会議での議決を経て Kelompok をよりよくするためにのみ使用する。

#### 5-2-4 Kelompok と Bimas

Kelompok で新しい増産技術を以って栽培を行うためには肥料その他の生産資材を購入する資金が必要である。しかし Kelompok 結成当初は資金もなく資材購入費も不足するであろう。

この資金入手のためには現行の Bimas を利用するのが良い。

資金借入れは Kelompok の Ketua 名義で一括借入れすることが望ましいが現行の Bimas では個人別借入れとなっているようであるから資金借入れの際は個人別に署名借入れを行い、購入する資材は Ketua が一括保管し P.P.L. の指導に従って使用するようになること。

もし資材も個人別に購入し各自勝手に使用しては新しい増産技術の指導は不可能となる。

#### 5-3 Himpunan Tani

Kelompok が増産技術及び協同作業をよく習得し進歩したら第 2 段階として Himpunan Tani を結成する。

Kelompok の段階では増産技術、協同作業の習得による増産のみが目的であったが Himpunan Tani ではこれに経済的行動が加味される。

Himpunan Tani には必ず簡単な事業を行なわせる必要がある。もし事業を行なわず単に精神的なものだけを基盤として Himpunan Tani を結成させるとそれが能動的な活動をする意欲を失なわせ名目だけのものになってしまう。この簡単な事業とは単一の Kelompok のみでは力がたりなくてむづかしいが数個の Kelompok が力を合せば出来るような事業でなくてはならない。この力とは人の能力、経済力の両者を含めてのことである。

Himpunan Tani は何個の Kelompok を以って結成すべきかはその実施する経済行為その他で必ずしも一定しないが農民自身が行う最初の事業であり事業自体それほど高度の経済力或は能力を必要としないものを選ぶのであるから Kelompok の数もそんなに多くない方がよい。大体 5～10 Kelompok 位が適当であろう。

##### 5-3-1 地区の選定

Himpunan Tani に包含される Kelompok はその成績特に協同作業の良いものでなくてはならない。5～10 Kelompok を以って 1 Himpunan Tani を結成するのであり又その位置も御互に接近していることが必要であるので参加全 Kelompok が満点の成績であるこ

とが望ましいがしかし実際にはそのようなことは望み得ない場合が多いが少くとも過半数の Kelompok が優良なものでなくてはならない。

Kelompok の成績が満足すべきものではないときは更に数 season 指導を繰返して成績の良くなった処から Himpunan Tani を結成させるようにする。

即ち地区選定の基準は：

- ① Himpunan Tani に参加する Kelompok はそれぞれの間の距離があまり離れていないこと。
- ② Kelompok 内の協同作業の状況が良好であること。
- ③ Kelompok 内の各組合員の増産の実績が出て来て若干の資金の負担が可能になっていること。

#### 5-3-2 Himpunan Tani の規約

Himpunan Tani は簡単なものではあっても若干の事業を行いその為には資金等も必要となってくるのでこの運営に当っては規約を作ってその運営を規制する必要がある。

別に規約例を掲げるがその内容には①組織②事業③会議④資金⑤会計等を盛り込む必要がある。

#### 5-3-3 資金(機材を含む)援助

Himpunan Tani が事業を行なおうとするときにはそれに見合った資金が必要である。各 Kelompok は事前に若干の醸金で基金を持って Himpunan Tani に参加するのでこの基金をそれに充当することは出来る。然し乍らこの基金はそれ程大きなものではなく事業資金として不足であろう。又新に Himpunan Tani に於て各組合員から資金を醸出させることは出来るが当初からそれ程多額の資金を徴集することは不可能である。そのために Himpunan Tani 開設当初の事業資金は何等かの型で援助する必要がある。これはその型が補助金であっても又 Credit であっても政府が準備しておかねばならない。或は銀行融資の道を作っておいて Himpunan Tani が必要な時に希望する額の資金徴達出来るようにしなくてはこの事業の円滑な推進は不可能である。

但しこの借入れ資金については Himpunan Tani は出来るだけ自己資金で徴達しどうしても止むを得ないもの例えば高額の機械購入費等に限定して行うべきで必要経費のすべてを借入に頼っていては将来その利子返済金に追われて健全な Himpunan Tani となり得ない恐れがある。

この辺については P.P.S. はよく Himpunan Tani の役員と検討し善導しなければなら

ない。

#### 5-3-4 Himpunan Tani に対する指導

Kelompok 段階の指導は比較的単純なものであるから出来るだけ P.P.L. を通じて行い P.P.S. は P.P.L. を指揮するだけで充分であろう。しかし Himpunan Tani の指導は経済的 Management の指導もあり P.P.L. にだけまかせておくことは出来ないので P.P.S. が主体となって指導する。

##### 5-3-4-1 Himpunan Tani 結成準備委員会

Himpunan Tani を結成しようとするときはその参加希望の Kelompok の Ketua、Sekretaris を以って結成準備委員会を作り結成大会完了までの諸準備及結成大会の運営を行う。

即ち④規約案の作成、⑤組織、⑥事業の内容、⑦資金及其徴達法、⑧結成大会までの各組員に対する Himpunan Tani の趣旨の周知徹底、⑨役員候補の選出、⑩職員の選定⑪結成大会の日程及式次第、⑫結成大会の運営等である。

農民達はこのようなことには不慣れであるから P.P.S. は必ず準備委員会には出席しよく、advice する必要がある。特に事業については Himpunan Tani の最も重要なことであるからよく検討して Himpunan Tani 発足後思わぬ問題にぶつかってその処置に適當を欠き事業が失敗するようなことのないようにする必要がある。繰返すが農民達はこのようなことに慣れていないから P.P.S. は役員の 1 人になったつもりで充分に指導しなければならない。

##### a 規約案の作成

Himpunan Tani を発足させるためにはその基本となる規約案を作り結成大会の議決を得て施行させなければならない。

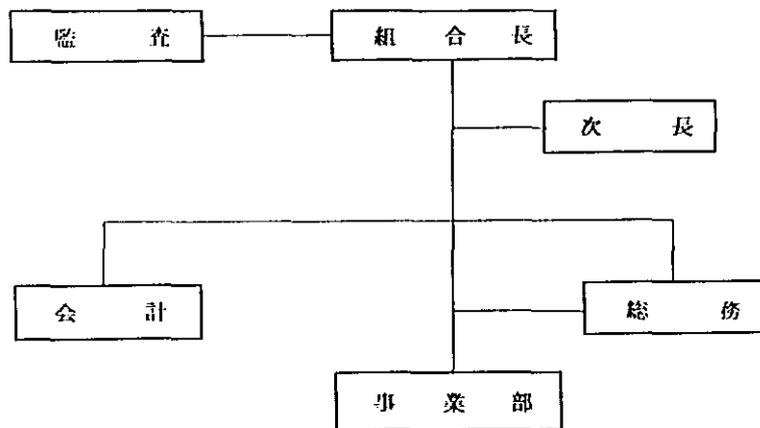
Himpunan Tani の行動はすべてこの規約に基づいて行なわなければならない。

別に掲げた規約は特定の処の規約であるからこの中からその Himpunan Tani に不必要なものを除き必要なものを追加して準備委員会に於てその Himpunan Tani のための規約案を作り結成大会にはかつて議決を求めらる。

##### b 組織

Himpunan Tani は Kelompok と違ってより大きく事業も伴っているのでその組織もやや複雑となる。

即ち例をあげれば



以上組織の役員は一般には参加Kelompok の Ketua , sekretaris より選ばれる。

その職責は

組合長： 組合を代表し、業務の責任者となる

次長： 組合長事故あるときは代理する。 又委員会代議員会を司会する。

会計： 組合長の指示により会計を司る。

総務： 組合長の指示により一般事務を司る。

事業部長： 組合長の指示により事業を行う。

監査： Himpunan Tani の会計、事業の監査を行う。

これらのHimpunan Tani 運営の組織の外に議決機関として委員会総会を作る。委員会の Member は委員でKelompok の Ketua , Sekretaris を以ってこれに充当する。総会は委員及び代議員を以って構成する。代議員は各 Kelompok より 4名に 1名の割で選出する。この組織及其の職責は規約の中に明記されなければならない。

e 事業の内容

例をRice Millにとれば

機械の能力、1日の運転時間、1日の所要燃料その他雑費、運転手外従業員の手当、機械の原価償却、年間運転日数、年間消化稈量、等より年間の所要経費を算出し利潤を考慮して概 100Kg当の賃摺料を如何に決定すべきかを検討する。この際組合員に対する賃摺料と組合以外の農家に対する賃摺料との間には若干の差を付けるが良い。しかしこの賃摺料は又一般

業者のものより若干安価にすべきであろう。

又毎日の運転時間、年間運転日数を計画通り実行するには稈の集荷をどうするか。一般の Rice Mill 業者の運転状況を見ると Management の良いものは大体年間を通じて運転されているがそうでないものは運転状況が不均一で収穫期には full 運転しているがざかい期には短時間運転か或は休止している。このようなことでは経済的運転とは云えず賃摺料の決定も出来ない。

又機械の Separate parts も何を準備しておかなければならないかも検討する。

#### d 資金及其徴達法

Himpunan Tani の資金は組合員から徴集する分と政府からの助成金或は銀行からの借入れ金とに分けられる。

組合員から徴集する分をいくらにするか、あまり高額にして組合員が負担出来ないようなことでは Himpunan Tani の運営に資金不足で失敗することも考えられるが運営費に比してあまりに少額では借入金が多くなり今後の償還が高額になり過ぎて失敗する心配もある。

この点を充分考えて組合員の負担額を決定する。又この負担金の徴集方法をどうするか。

最も安全な且つ正確な方法を考えることが必要である。又銀行から借り入れる場合その返済方法をどうするか等も検討の必要がある。

以上 a～d の項目の検討の結果から毎 season の予想純益金はいくらになるかもあらかじめ検討を加え事業が実施されたらこの計画通り実行するように努力することが必要である。

#### e 役員候補者の推薦

Himpunan Tani の役員は総会に於て決定するものであるが総会当日になって候補者もなしに選出することはいたづらに総会が混乱するだけであるから準備委員会で候補者を決定し総会当日はこれを総会に推薦し総会で決定する。

#### f 職員の選定

Himpunan Tani 設立後必要な職員は総会前に決めておき設立されたら直ちに採用して Himpunan Tani が順調に運営されるようにしておく。

#### g 結成総会の日程

Himpunan Tani は結成総会の議決のあった直後から発足するのであるから結成総会は Himpunan Tani にとっては記念すべき大切な日である。従って結成総会の日は農民の集まり易い日を選び出来るだけ多くの農民の参加を得て開催出来るようにしたい。

#### 5-3-4-2 Himpunan Tani 発足後の指導

Himpunan Tani はこのような集団の運営には全く経験のない農民の集団であるから発足当初から教seasen特に発足当初はP.P.S. は役員会に務めて出席してadvicする等その運営や帖簿の記載の方法その他につき濃密な指導を行い少しでも早く1人立ち出来るように仕向けなければ完全に独力で運営出来るようになることが望ましい。

#### 5-3-4-3 Himpunan Tani と Kelompok

Himpunan Tani が結成されてもKelompok は解消しない。Kelompok は生産最小単位のgroupでP.P.L.を通じて新技術の普及の母体となるしもっと進めばKelompok内で増産に対する話し合い等も頻繁に行なわれるようになることが望ましい。

Himpunan Tani はKelompok の上位の集団でありその委員会は各KelompokのKetua, Sekretarisで組織されているのであるからこの委員会で必要なときはKelompokの運営についてのdiscus等を行いKelompokの生産がより向上するように努力する。又Kelompok内に問題が生じた場合でも委員会はよりよきadviceerとしてそのKelompokのKetuaにadvicする等Himpunan Tani 傘下のKelompokが同じようなlevelで向上する方向に善導する必要がある。

#### 5-4 教育、研修、集会

##### 5-4-1-1 Ketua sekretaris 研修

Kelompokを結成し新しい増産技術の習得、協同作業実施の為にDemo Farmに参加するKelompokのKetua, Sekretarisは事前に召集し5~7日の研修を行う。この研修に於てはDemo Farmの目的、Tani Makmurの趣旨、協同作業の意識、増産新技術等のtheoryの外増産技術の実習を教科目とする。特に協同作業はTani Makmurの基本であるからその趣旨必要性、有利性等をよく説明しこれ等Kelompokの幹部がよく認識し彼等がKelompokに帰ってから組合員に説明実施出来るよう繰り返し教えなくてはならない。

##### 5-4-1-2 Operator 研修

増産のために農機具を使用する必要がある場合はKelompok或はHimpunan Taniから2~3名の青年を選んで10~15日間研修を行う。この研修では使用する農機具の構造使用法、使用上の注意、修理等の実習に重点を置く。

##### 5-4-1-3 組合員に対する研修

農閑期を利用しKelompokの所在するKampungの公共施設(小学校等)を利用し午後農民の集り易い時刻に組合員を召集してKelompok(Demo Farm)の趣旨、新しい増産技術等について研修を行う。

#### 5-4-1-4 Ketua, Sekretaris 会議

各Kelompok 間の連絡を密にし共同の問題を解決し且つ各Kelompok がそろって増収になるために毎月1回Ketua Sekretaris 会議を開催する。この会議に出来るだけKetua, Sekretarisが主体となりP.P.S., P.P.L. は傍聴者として出席する型をとる方が良い。

Cihea に於ては1人のKetua が司令し記録係もKetua の中から選出し会議を運営している。

議事の一般の例をあげると

1. 開 会
2. 各Kelompok の1ヶ月の経過報告
3. 問題点の検討
4. 今後1ヶ月の予定
5. P.P.S., P.P.L.よりの注意事項及御知せ
6. 閉 会

となっている。

尚Ketua, Sekretaris会議では各人会費として若干の糧を醸出して基金とし年1~2回先進地見学に行っている。

#### 5-4-2 Himpunan Tani

規約では委員会は毎月1回開くことになっているが役員会は少くとも毎週開催し事業の円滑な運営を計る。

#### 5-4-3 その他

Tani Makmur事業は短时日の間に完成するものではなくこの完成には8-10年もかかる。又事業が完成したからといってそのまま放置して指導の手を引いてしまつてはこのTani Makmurはまだ若いので段々衰退して行く恐れもある。このTani Makmurをよりよく発展させるためには将来この地方の指導者となるであろう青少年の教育が必要であろう。

この方法として

- a 小学校の上級生に対してTani Makmur Himpunan Tani, Demo Farm の概念を教科の1つとして教える。
- b 中学校農業中学校でも同じように概念を教科として教える外農業中学校ではDemo Farm的な実習も加える。

c 農村青年の group を作って種々の検討会等を開催する。  
等のことも必要であろう。

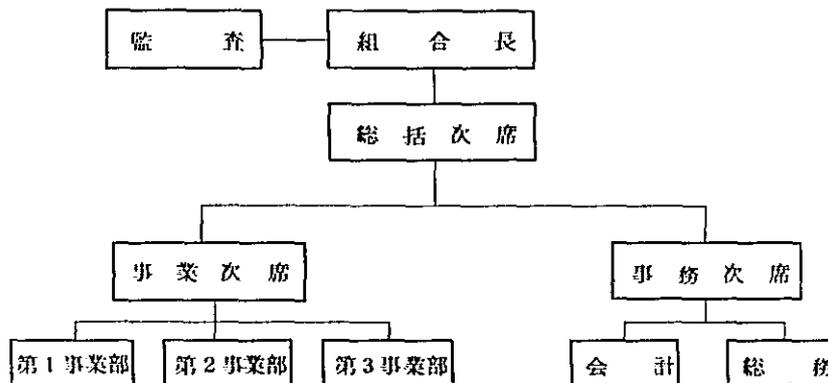
#### 5-5 Unit Himpunan Tani

Himpunan Tani を組織運営して2-3 season 後彼等がこのHimpunan Tani を  
独力で完全に運営出来るようになれば第3段階としてこれらのHimpunan Taniを数個  
Unit してより強固な集団を作る。

Unit Himpunan Tani は最終段階の農協結成の前段でありこれが完全に運営出来るよ  
うになれば農協の結成はむづかしいことではない。

Himpunan Tani に於ては簡単な事業を行ったがUnit Himpunan Tani では  
Himpunan Tani を数個Unit したので資力も人的能力も強化され又Himpunan Tani  
で既にこのような農業集団の運営或は事業の運営を経験して来たのであるからより複雑な事  
業の運営も可能であろう。

従ってUnit Himpunan Tani の組織は



となる。

Himpunan Tani で行なわれていた事業はそのまま第1事業部、第2事業部、第3事業  
部等となる。従ってこのUnit Himpunan Tani が5つのHimpunan Tani で結成され  
るならば事業部は第5まで出来る。各事業部の長はHimpunan Tani の事業部長がそのま  
ま就任する。

尚Unit Himpunan Tani は3-5のHimpunan Tani をUnit した方が良い。

又Unit Himpunan Tani は組織も大きくなるので主たる事務所も一定して置く必要が

ある。

#### 5-5-1 設立準備委員会

Unit Himpunan Tani を結成しようとする Himpunan Tani はその役員 ( ketua , sekretaris , Bendahara , Pengurus perusahaan , Pengurus umum ) を以って結成準備委員会を結成し Unit Himpunan Tani 結成までの諸準備をする。

諸準備のやり方は Himpunan Tani 結成 の時に準ずるが特に出資については現在 Himpunan Tani の持っている財産で Unit Himpunan Tani に移行するものの評価等は十分に注意しあとで問題の起らないようにすると同時に組合員個人別の出資金も明確にしておかなければならない。

#### 5-5-2 定 款

定款は Himpunan Tani の規約に準じて作成するが Himpunan Tani になくて Unit Himpunan Tani にあるものは付加える。例えば総括次席事務次席或は財産管理等である。

委員会の委員は Himpunan Tani の役員を以って之に充て、監事は Himpunan Tani の監事を以って之に充てる。又代議員は各 Kelompok より 2 名を以って之に充てる。

#### 5-5-3 事 業

Himpunan Tani の行っていた事業はそのまま継承し第 1 事業部、第 2 事業部、第 3 事業部等とする。更に又新しく kios 等も事業に加える。

記帖その他は Himpunan Tani で行っていたものと同じである。各事業部も特に必要がある場合の他は Himpunan Tani の事業部長がそのまま就任する。

#### 5-5-4 指 導

事業の運営記帖は既に Himpunan Tani で十分に指導しており新規役員も既に経験済みであり特に新しい指導は必要としないと思うが組織が複雑になっているのであるから各部門との連絡或は Management については重点的に指導する必要がある。この組織が積極的に運営され農民の信頼を得るようにならなくてはならない。又 2-3 seasons したら充分な活動が出来るようにならなくてはならない。

Unit Himpunan Tani が結成されたら Himpunan Tani は発展的に解消するが Kelompok は存続する。

#### 5-5-5 組 合 費

Unit Himpunan Tani は組織も大きくなり又農民のためになる積極的な事業を行うためには市場調査等の諸調査或は役員も半ば専従的になるものもあるので若干の報酬も必要で

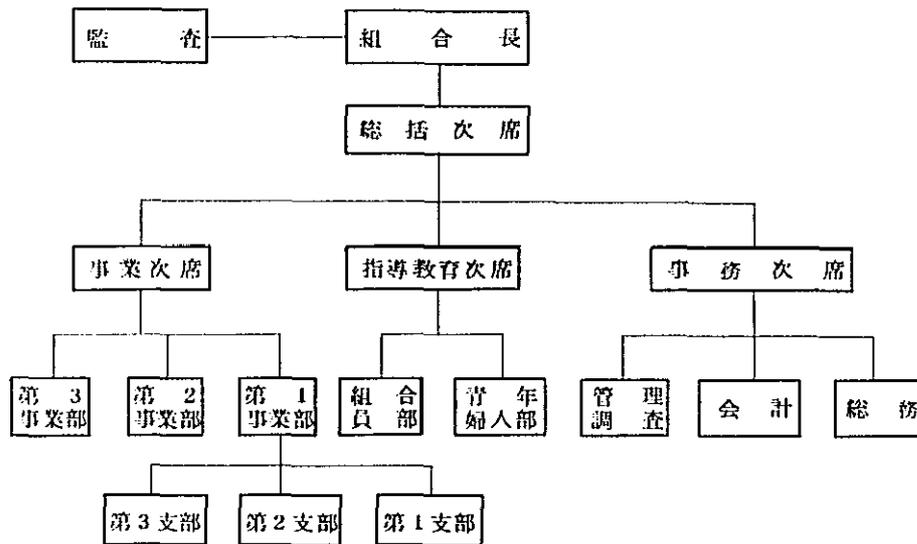
あろうから経費も多く必要とするので各組合員から若干の組合費の徴集も必要となるであ  
らう。しかしこの組合費は農民が喜んで支払い出来る金額でなくてはならない。

これは組合費の額の問題だけでなくその必要性が組合員を納得させるものでなくてはなら  
ない。

#### 5-6 農協の設立

Unit Himpunan Tani を設立して2-3 seasenして充分にこれが運営出来るように  
なったら全Unit Himpunan Tani を一丸とした農協を設立する。

この設立のやり方はUnit Himpunan Tani の場合と同じであるから特に説明の必要は  
ないが組織としては



Unit Himpunan Tani では事業部はHimpunan Tani からそのまま受取って第1事  
業部、第2事業部としたが農協では事業の種類によって分ける。

即ち例えば第1事業部は精米部、第2事業部は養魚部というようにする。そしてその下に  
Unit Himpunan Tani の事業部をその種類毎に第1支部、第2支部とする。

この組織ではUnit Himpunan Tani と違う処は事務次席の下に新に管理調査が入り、  
又新しく指導教育次席を置き指導教育に関する部を設置したことである。

管理調査は農協内の財産の管理と市場その他農協としての必要な諸調査或は外部から依頼

される農協内の調査報告等を司る。

又指導教育内の青年婦人部は組合内の青年婦人に対する指導教育を担当する。外部から教師を招聘して手芸を教えたり、或は竹細工等の工芸品の作り方を教えたりする。これらの手芸工芸は趣味と実益を兼ねたものになるであろう。

設立当初の役員はUnit Himpunan Tani の役員から選出するが第2回からは公選する。委員も第1回はUnit Himpunan Tani の役員中農協の役員にならないものから選出するが第2回からは公選する。

定款はUnit Himpunan Tani に準じて作成する。

又農協が設立されたらUnit Himpunan Tani は解消するがKelompok は存続する。このKelompok は現在属地になっているので適当な時期に個人に組替えることも必要である。

代議員は各Kelompok 1名とする。

農協の役員は殆んど専従となることであり事業を積極的にやればやる程多忙となるのでこれに対する報酬も考える必要がある。この報酬については総会に於て議決して決定する。又組合費についても同様である。

あとがき

以上CiheaをModelとして1つのTani Makmur 事業の進め方を記述したが記述を終って見ると順調に事業が進んでいて又将来も完成まで問題なく進んで行くように見えるがTani Makmur というのはあいまいな概念であるから具体的にどうするかということははっきりしなかったので最初は増産と協同作業を目的としたDemo Farm から着手した。しかしDemo Farm 以後の事業については色々な案が検討されて来たが最終的には現在の型が出来上がったものである。

CiheaのTani Makmur 事業はまだHimpunan Tani の時代で完成までにはまだまだ期間を必要とし、段階としてもUnit Himpunan Tani 農協と2段階を残している。これ等の段階で或は現在の状態では我々が予期出来ない問題が起るかも知れない。しかしこのような問題に直面した場合は常にTani Makmur の最終目的がその地域に住む全農民の生活水準をあげるものであるという大前提を基礎にして考えればこの解決策は自ら出て来るものであろう。

添付してある参考資料は我々が団長名を以って西ジャワ州政府、普及局、総局へ提出した報告書の1部と普及員(P.P.L)研修用に使用した資料の1部或はCiheaのDemo

Farm に対して出した注意事項の一部である。

これから Tani Makmur 事業に着手しようとする処ではこれ等を参考としこの書の中から取捨選拓して事業を実施し成功されることを期待する。

最後にこの書を作成するに当り我々の Counter Parts Mr Sukri , Mr Tjetje の協力を得たことに対し感謝の意を表し筆を置く。

1973年10月末日

Proyek Tani Makmur " Cihea "

船 田 正 明

今 西 功

資料 1

Proyek Tani Makmur "Cihea" に於ける Demo Farm 評価採点法

1. 苗代について

1-1 種子

1-1-1 品種

- a 新品種 ( P.B5、C<sub>0</sub>-63 Syntha, Pelita 等、1品種のみの場合 )
- b 新品種 ( 2~3 品種の場合 )
- c 新品種 ( 4 品種以上の場合 )
- d local 品種

1-1-2 種子の予措

- a 水選し1昼夜浸水し1昼夜芽出しを行った場合
- b 水選し1昼夜浸水し2昼夜芽出しを行った場合
- c 同上で3昼夜以上芽出しを行った場合
- d 何もしなかった場合

1-2 苗代作り

- a 長方形 ( 巾 1.20 m ) で苗床面が平であること。
- b 長方形 ( 巾 1.20 m ) であるが苗床面が平であると云えないもの
- c 長方形であるが巾が不均一であるもの
- d 不整形

1-3 苗代施肥

- a 手引通り行ったもの
- b 手引通り行なわなかったもの

1-4 播種

- a 均平に播種されたもの
- b やや均平に播種されたもの
- c 不均平なもの

1-5 かん水

- a 良好
- b 中位
- c 良くない

1-6

- a 行なったもの
- b 行なわなかったもの

1-7 苗の発育

- a 良好
- b 中位
- c 良くない

以上苗代期の採点は最高で30最低で2となる。

II 本田

II-1 耕起

- a 耕耘機でPlowingしたもの
- b " Harrowingしたもの
- c 鋤で20cm以上耕耘したもの
- d 鋤で15~20cm以上 "
- e 鋤で15cm以下 "

II-2 植付

II-2-1

- a 30cm×20cm
- 30cm×18cm
- 30cm×15cm
- b 25cm×25cm
- c それ以外

II-2-2 植付深

- a 平均3cmで5cm以上はないもの
- b 平均3cmであるがときどき5cm以上のものが見られるもの
- c その他

II-2-3 1株植付本数

- a 3本植
- b 2-4本植
- c その他

Ⅱ-3 施肥

Ⅱ-3-1 基肥

- a 植付2-3日前に施肥して土とよく混ぜたもの
- b 植付当日田植の前に施用したもの
- c 田植前に施用しなかったもの

Ⅱ-3-2 追肥

- a 全組合員が手引通り行ったもの
- b それ以外

Ⅱ-4 防除

- a 手引に従って協同防除したもの
- b それ以外のもの

Ⅱ-5 出穂期の生育状況

- a 均平に出来ているもの
- b 中位のもの
- c 均平でないもの

Ⅱ-6 雑物除法

- a 異品種もヒエも抜いているもの
- b ヒエ等は抜いているが異品種がまじっているもの
- c 雑物除去を行っていないもの

以上本田での採点は最高50最低7となる。

Ⅲ 収穫

調整未乾燥初で標本刈の結果より

- a Kelompok 平均8 ton / ha 以上
- b " 7~7.9 ton / ha
- c " 6~6.9 ton / ha
- d " 6 ton / ha 以下

Demo Farmは個人多収穫品評会でないので平均単収のみならずKelompok内の個人別単収に差のないことが望ましいので別紙のようにKelompok内個人別単収の分散を計算し一定の率を決めこれと単収の採点の相乗積を以って収穫の採点とする。

この率はDemo Farm 開始当初はやや甘く次第に厳密にする。

Cihea に於ては

第1 season では	分散 130 以上	0.6
	“ 130 以下	1.0
第2 season では	分散 0 ~ 50	1.0
	“ 51 ~ 100	0.8
	“ 101 ~ 150	0.6
	“ 151 以上	0.4
第3 season では	分散 0 ~ 30	1.0
	“ 31 ~ 60	0.9
	“ 61 ~ 100	0.7
	“ 101 ~ 200	0.4
	“ 200 以上	0.2

とした。

尚収穫のための標本刈は1aとし全農家がこれを行い且つ0.2 ha 以上の農家は0.2 ha 毎に1ヶ所標本を採った。

資料 2

Demo Farm 評価のための1因子としての分散の計算

1. 何のために Demo Farm 評価に分散を計算するか？

Demo Farm の実施は個人多収穫品評会とは違う。御承知の通り多収穫品評会は誰が ha 当の収量が最高であるかが重要であるが Demo Farm では参加農家全員が協同作業により一諾に増産することが目的である。従って各農家の単収が平均値に近い程良い。

次に簡単な例をあげて見よう。

No	group				
	a	b	c	d	e
1	3	1	4	2	5
2	4	2	2	1	5
3	5	3	2	2	5
4	4	4	6	3	5
5	4	5	6	2	5
6	4	6	1	2	5
7	4	7	7	3	4
8	4	4	3	1	3
9	4	2	5	10	2
10	4	6	4	14	1
合計	40	40	40	40	40
平均	4	4	4	4	4

group a~e は平均値は全く同じ4であるが内容は皆違っている。

group d は2つのみ高く他は皆平均より低い。a は殆んど皆平均値に近く高低の差が無いが b、c、e は各個に変動がある。

この表を見ただけで計算をしないでも a が最も良く d が最も悪いことはわかるが、b、c と e ではどの group が良いかわからない。

これの分散を計算して見ると a=0.2、b=4.0、c=4.0、d=19.1、e=2.2 となり a が最も良く d が最も悪いがこれは前に計算しないで判定したのと同じである。しかし乍ら b、c と e の間では b と c は同じで e がより良いことがわかる。

Demo Farmの単収はこのように簡単なものではないので見ただけで順位を決めることはむづかしい。従ってDemo Farm 評価の一助として分散を計算する必要がある。

2. 分散計算の例

下記の表はCihea に於ける 1972/73 雨期作のDemo Farm の単収の1例である。

Kelompok Demo Farm Wilaya 1 Kelompok

組合長 Moh Adin

No	農 家 名	1 a 刈の成績			
		1	2	3	平 均
1	Moh Adin	79.5	80.5		80
2	Rasidi	82			82
3	Uro	78.5			79
4	Atjin	95			95
5	Nji KomasiK	74.5	81.5		78
6	Sarkoni	74	76.5	80.5	77
7	Nji Uneh	82			82
8	Surya	82			82
9	Nji Mamah	80	71.5		76
10	Nji Sadiah	79	75		77
11	Nji Endeh	84			84
12	Obing	79	81.5		80
13	Atang	81.5			82
平均					81

このDemo Farmでは個人別単収の平均は81であり最高は95で最低は76である。

このKelompok の個人別単収の分散の計算式は

$$\frac{a^2 + b^2 + c^2 \dots \dots \dots n^2 - (a \sim n \text{の平均値})^2 \times n}{n - 1}$$

先ず各々の2乗を計算する。

区	単 収	2 乗
1	80	6400
2	82	6724
3	79	6241
4	95	9025
5	78	6084
6	77	5929
7	82	6724
8	82	6724
9	76	5776
10	77	5929
11	84	7050
12	80	6400
13	82	6724
平均	81	6561

2乗の合計は 85736

6561×13は 85293

85736 - 85293 = 443

443 ÷ (13 - 1) = 36.9 ≈ 37

即ちCiheaのKelompok ( Demo Farm )<sup>1/1</sup>の1972/73雨期作の単収の分散は37である。

この数字は他のKelompokのそれと比較して少い程良いし又それがDemo Farmの目的に添っている。

しかしこの数字は幾つ以下が良く幾つ以上が悪いというのではなくDemo Farm間を比較するためのものである。

この計算は標本数が少いと意味がないので単に計算結果のみを論じてはいけない。

1973年7月7日

Perjan Tani Makmur Cihea

船田正明

### 資料 3

1972/73 雨期作 Cihea Demo Farm 実施に当たっての注意事項。

Cihea に於ける Demo Farm の実施は今雨期で第 2 年目を迎え経続地区 17 新規地区 15 と地区数も多くなっているので普及員が指導を充分行うことは勿論組合長も Kelompok 組合員をよく指導し所期の目的を達成するように努力してほしい。

幸い経続地区は既に 2 回 Demo Farm を経験しており過去数回に亘る研修或は文書で数回注意事項を知せてあり何を実行しなければならぬかは充分承知している筈であり、又新規地区も先日の研修に参加し又経続地区の人々から色々話を聞いていることと思うのでその実行方法については充分知っている筈である。

しかし過去の実績から見ても参加農民の中にはその趣旨を知らぬと思われるものもあり中々満足すべき結果を得ていないのでここに特に注意すべき点を記載するので普及員は勿論組合長も農民をよく指導して目的達成に努力してほしい。

#### 1. 苗代について

健全な苗を作ることは増産の基礎であることは既に何度も説明した。健全な苗を得られなければその後の管理が如何に良好であってもその結果は限定される。

苗代の期間はわずか 20 日間で稲の全生育期間に比しわずか  $\frac{1}{6}$  であり又面積も少いので管理を充分にすることはそれ程むづかしいことでも労力があることでもないのでこの期間の管理には特に注意して良い苗を得るようにしてほしい。

##### a 苗代の集団化

苗代は管理上必ず集団化すること。

##### b 苗代の形

巾 120 cm の長方形とすること。後に述べる播種量を守るためにも長方形にしないと厚播になる。

苗床は中高にせず平にすること並に各苗床間の高低差を無くすることは水管理上にも必要なことである。

##### c 施肥

苗代の基肥は播種 2-3 日前に〔 $m^2$  当り Urea 10 gr T.S.P 10g〕施肥して表土約 5 cm とよく混合しておくこと。播種当日に施肥すると発芽を悪くし又苗の生育にも良くない。

##### d 種子

- ① 種子は 1 ha 当 22 - 25 Kg を準備し水選を行い水に浮いたものは除く。
- ② 苗床 (苗代ではない) 面積は 1 ha 約 400 m<sup>2</sup> あれば充分である。
- ③ 種子は 24 時間水に浸し 24 時間芽出しを行う。芽出し種子は新根が長くなり過ぎないように注意する。

- ④ 播種量は芽出しした種子 m<sup>2</sup> 当り 70 ~ 75 gr を播く。

過去の実績では一般に厚播が多い。見目で薄すぎると思われる位で丁度良い。

e 覆土

播種後よくバナナの茎で押えて土の中に入れておく。

f かん水

- ① 播種後直ちにかん水し水深 2 - 3 cm に湛水しておく。これを忘れると強雨のために被害を受けることがある。
- ② 播種後 3 - 4 日して苗が 3 cm 位になったら水を落し苗床とすれすれ位にしておく (みぞにだけ湛水しておく)
- ③ 田植 2 - 3 日前から又水深 2 - 3 cm 位に湛水する。

g 防除

今雨期は特に ganjun の多発が予想されるので播種後 10 日 14 日 17 日 19 日の 4 回 スミチオン或はダイアジノンの液剤 (1000 倍液) で防除する。

(別に配布したパンフレットを参考にすること)

- h 苗の高さは 25 cm より高くならないようにすること。そのためにも e、d の項をよく守ること。

苗は大体 20 - 22 日おそくとも 22 日で田植を終ること、苗代跡も 23 - 24 日位で田植を終るようにする。

2. 本田について

一般に Indonesia の水田では生育むらのある処が多い。これでは良い収量をあげることは出来ない。

生育むら無くするためには第 1 には良い丈夫な苗だけを同じ深さに植える必要があることは勿論であるが本田耕起も重要である。

a 耕起について

- ① 収穫後下から刈った藁をそのまままとめて放置しておくがこれは一ヶ所に置かず平均に散布しておくこと。

- ② トラクターで良く平均に耕起すること。
- ③ 昨年の雨期作ではDemo Farm 第1回のことであり耕起がはやくて苗が20日になる前に全部の代掻が終らなかつた例があつた。耕起は早目に着手し苗が20日になる前に代掻が終るよりに計画を実行すること。

b 施肥

Cihe a に於ける試験成績によれば化成肥料(15:15:15)900Kg/ha 後半追肥重点区の成績が最も良いが今回は従来通りUrea 及T.S.P を使用する。

次回からもし化成肥料が必要なだけ入手出来ればそれを使いたい。

尚化成肥料900Kg/ha はUrea に換算すれば300Kgに相当するが経済上よりこれも従来通り200Kgとする。

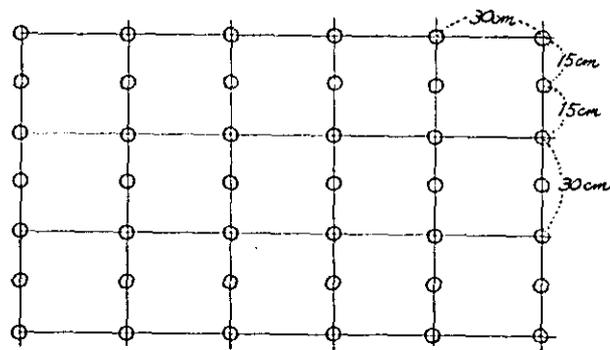
T.S.P は100Kg/ha 全量を基肥とする。

Urea は基肥40Kg/ha 第1回追肥(田植後10-15日)40Kg/ha、第2回追肥(幼穂形成後期)100Kg/ha、第3回追肥(出穂前)20Kg/ha とする。

Cihe a の試験では第2回追肥に第3回分も含めて1度に施用したがDemo Farm に於ては120Kg/ha を1度に施用することは病害発生の原因ともなる恐があるので分けて施す方がよい。幼穂形成期前にあまり多くの肥料(N)を施用すると分けつが多くなりすぎたり、下部節間を長くし不稔粒を多くする原因となり収量を減ずるので充分注意すること。

c 栽植密度

従来は25cm×25cmで行つて来たが出来れば30cm×20cm、或は30cm×15cmとした方がよい。30cm×15cmの場合は巾30cmの条付機で縦横に筋付を行い縦の中間に1株植えるがよい。



d 1株当植付本数及植付深

1株は3本植とし深さ3cmに植付けること特に苗代跡は一般水田より1~2日位おそく植えることになるので組合員全員で協同で植付けること。又この場合特にていねいに3本浅植を実行し稲の生育が他の本田に追付くようにすること。

e 水管理

田植後は直ちにかん水する(深さ2~3cm)こと。田植後40~45日したら落水して田面を乾す。第2回追肥の2日位前に(大体田植後60日位)からかん水する。雨期であるので完全に乾すことは出来ないかも知れないが少くともこの期間には湛水しないように排水に留意する。

(もしこの期間中降雨が無く田面に割目を生ずるようになれば1日位田面に水を流して田面をしめらす程度にする)

f 防除

前にも述べた通り今雨期はganjurの多発生のおそれがあるので別に書いたパンフレットをよく読んで間違のないようにする。

田植後メイ虫の発生の多いような時は植付後20日位でダイアジノン乳剤を散布する。又田植後35日でB.H.C 粒剤をha 当35Kg散布する。

g 防草

除草は手引に書いてある通り実行する。

特に生育後半のヒエ抜は充分に実行すること。日本では水田にヒエがあるとナマケモノの農家として笑われる。Indonesiaではよく水田にヒエを見かけるがヒエは丈夫な雑草で生育も早いので出来るだけ早目に抜取を実行すること。

h その他

一般にIndonesiaでは稲は稈の充実が充分でなくやせた稈が多い。これは天候の影響によるものであろうが早く生長して出穂前から力が下降するためと思われる。それ故に生育初期は出来るだけ押えておいて出穂頃から力が出るようにしなければならない。このためには良い苗を植え基肥及生育初期の追肥(第1回追肥)の量を少くして生育初期の生長を押え幼穂形成期後の追肥を重点に施用することが必要である。

Cihea の試験成績では幼穂形成期の追肥に150Kg/ha まで施用して効果をあげた例があるがこれは小さな圃で管理が充分行きとどいているために出来ることで一般には幼穂形成期に100Kg/ha 以上のUrea を施用することは病害発生等の危険を伴うおそれ

があるので後半の追肥は第2回、第3回に分施した方が安全である。

又試験成績では化成肥料(N15%P15%K15%)を使用したものは良い結果を得ているが既に今雨期用として必要なUrea及T.S.PをPerjan Tani Makmur Ciheaで準備しておるのでこれを利用し、もし可能ならば次期乾期作(1973)からは化成肥料を使用したい。

1972年10月16日

Perjan Tani Makmur Cihea

船田正明

資料 4

1971/72 雨期作 Proyek Tani Makmur Tjihea 内に於ける Demo Farm 成績  
についての報告

はじめに

Proyek Tani Makmur Tjihea の最終目的は Tjihea 地区内の農民の生活水準の向上にある。

Tjihea 地域のように水田中心の地方では農民の生活水準を向上させるためには水稻の増産が必要である。

勿論水稻の増産のみが直接農民の生活水準を向上させるものであるとは云い得ないがしかしこれが最も重要な因子であることは明かである。

Proyek Tani Makmur Tjihea では上記の理由から 1971 年 10 月より Kredit を以って 16ヶ所の Demo Farm を設置しこれに対し肥料農薬、種子の配給農機具の貸与、協同作業及新しい栽培技術を行って Demo Farm の生産を向上させ、Demo Farm を通じて Tani Makmur Tjihea 地内の生産を向上させその結果として農民の生活水準の向上を計ろうとしている。

この計画では同一 Kelompok に対して 4 season に亘って指導を行い又年々 Demo Farm の数を増加して行くことになっている。

1971/72 年雨期作は Demo Farm 設置第 1 年目であり Key farmer 等を 32 名 10 月 5 日より 10 日まで 6 日間 Tjianjur の普及所に召集し研修を行った。

しかし最初のこともあり Key farmer 等の理解度も一様でなく必ずしも完全な結果が得られたとは云えないが或る程度の成功を得ることが出来たのでこの成績を報告すると同時に今後の改善すべき点を述べ報告したい。

1. 総括

Tani Makmur Tjihea 地区 837 ha 160 Kelompok 中今回 Demo Farm に参加したものは下記の通りである。

Wilayah	Kelompok	組合員数	面積 ha	備考
I	3	14	5,310	
I	16	20	9,842	この地区はKelompok
I	21	17	5,420	16. 17の合併されたもの
II	12	13	4,853	
II	27	15	4,527	
II	36	12	5,076	
III	7	17	6,063	
III	23	15	5,389	
III	35	16	4,379	
III	30	14	5,050	
IV	2	16	5,857	
IV	5	16	5,210	
IV	39	20	5,000	
V	4	21	5,410	
V	13	20	5,257	
V	16	15	5,226	
計	16	261	87,870	

これらの参加Kelompok は

- ① 生産資材はPerjan Tani Makmur Tjihea が責任を以って配給する。この経費はKredit による。
- ② 耕耘は耕耘機を以って行う。
- ③ 栽培の指導はPerjan Tani Makmur Tjihea のBiro Penyeluhan の普及員が行う。
- ④ 共同作業を実行する。

の諸項目について約束した。

上記Kredit については下記の基準によって実行した即ち

a 生産資材については

1 種子代 30Kg/ha 単価R.P 400 計1200 RP

2	尿 素	2 1 5 Kg/ha	単価 R.P	2 6.6	計	5, 7 1 9 R.P
3	T.S.P	1 1 5 "	"	2 6.6		3, 0 5 9 "
4	殺ソ剤	$\frac{1}{2}$ "	"	4 5 0		2 2 5 "
5	Diazinon	2 lt/ha	"	1 1 7 5		2, 3 5 0 "
	合 計		"			1 2, 5 5 3 "
b 耕耘機使用料						
1	第1回耕起					3, 2 5 0 "
2	第2 "					4, 2 5 0 "
	合 計					7, 5 0 0 "

これらのkreditは農民に対しDemo Farm Kelompok の組合長を通じて貸与する。  
又生産資材については必要日の1週間前に配給する。

又返済については耕耘機使用料については3350 R.P は現金で残4150 R.P は収穫後利子月 $\frac{1}{2}$ ％と共に返済する。生産資材kreditは収穫後利子月 $\frac{1}{2}$ ％と共にDemo Farm Kelompok の組合長を通じて返済する。

上記条件で実施されたKreditの1972年4月30日現在の返済状況は約60％完了となっている。

又技術指導については事業実施前に参加Kelompok の組合長、と次席32名をTjianjur の農業普及所々属の農業中学校に召集し10月5日から10日まで6日間合宿研修を行った。この研修の講師はTjihea 職員、西ジャワ州、普及局並にO.T.C.A 専門家が担当した。

教課はDemo Farm の主旨、作業計画、協同作業並に栽培に関する種子から播種までの実習等で連日7時より21時まで中間に食事のため3回休息を取るのみの強日程であったが殆んど病人も出ず熱心に受講していた。

尚その後Demo Farm 栽培期間中全組合員を対照としたgroup 研修を下記によって実施した。

№	Kelompok	組 合 長 名	期 間
1	II / 12	Obing	1971年12月27日より 1972年 1月 8日まで
	II / 27	Hadi	
	II / 36	Sudji	
2	IV / 5	Handa	1971年12月27日より 1972年 1月8日まで
	IV / 2	Upen	
	IV / 39	Hanta	
3	III / 30	H. Mukarom	1972年 1月10日より 1972年 1月18日まで
	III / 35	H. Munawar	
	III / 23	Odi	
4	III / 7	Habib	1972年 1月10日より 1972年 1月18日まで
	V / 13	Djae	
	I / 21	Kojiman	
	V / 16	Mahpud	
5	I / 3	Parid	1972年 1月21日より 1972年 1月29日まで
	V / 4	Adang G.	
	I / 16-17	Sarsa	

以上各 group とも最寄の小学校等を利用し毎日午後2時より4時まで2時間研修を行ったが出席者は単に Demo Farm の組合員のみならず附近の農家も参加し受講者は予定の2倍以上に達した。講師は Tjihea の職員並に O.T.O.A 専門家が担当した。

尚上記研修の外各 Kelompok より2名計32名に対し Tjihea に於てトラクター利用の研修を10月上旬11日間開講した。この研修の講師も Tjihea 職員並に O.T.O.A 専門家が担当した。

## 2. 栽培指導

乾期作より雨期作までの期間は2ヶ月間あるので Demo Farm は必ず Plowing を実施させ下記の作業の予定表を各 Kelompok 毎に作成させこの作業予定日には普及員は必ず現場指導を行うことを実行させた。

	1	2	3	4	5	6
Kelompok	面積	組合員数	浸種月日	芽出し月日	播種月日	

7	8	9	10	11	12
苗代防除	本田基肥	苗代第2回防除	植付	第1回追肥	第1回除草
13	14	15	16	17	18
第1回防除	第2回除草	第2回防除	幼穂形成期	第2回追肥	第3回追肥
19	20				
第3回防除	収穫				

(1) 苗代

苗代は集団化し共同苗代を実行させることに務めたが1部にはこれが完全には出来なかったものがあった。

共同苗代は協同作業の基本的なものである。これすら実行出来ないではその後の協同作業も完全に実行され得ないであろう。

又苗代作りが正確に指導通り実施出来なかったものも若干あった外一般に厚播が多く水の管理が悪く播種後強雨にあたり又乾燥したりして発育を悪くし健全苗の育成が予定通り出来なかったものもあった。

Indonesiaでは苗代期間はわずか20日間であり稲の全生育日数に比しわずか $\frac{1}{6} \sim \frac{1}{7}$ にし過ぎないのであるそかにし勝であるが健全な苗を育てることは増産上最も重要なことである。研修においてもこれに重点を置いて指導したにもかかわらずこれが完全に実行出来なかったのは残念であった。

これについては今後農民は勿論普及員にも徹底させる必要がある。

(2) 本田

田植時の植付深の深浅の差、基肥追肥の不均一或は本田耕起の際の薬の鋤込みの不均一等により生育初期に不そろいものがあった。

又生育中期に ganjin の大発生を見た。その被害は大きく30~40%の被害を受けた処も見られた。

Demo Farm の防除はメイ虫を中心に考えていたのでこれが対策がおくれて被害を増大した感がある。今後大いに留意する必要がある。

又1部に白葉枯、紋枯、菌核病の発生を見たがこれらの防除は農薬が全く無かったので、そのまま放置せざるを得なかったのは残念であった。

これ等の被害田の薬は収穫後焼却すべきである。

従来 Indonesia では防除はすべてメイ虫対策であるがメイ虫以外の被害はむしろメイ虫を上廻っているようである。

(3) 収 量

収穫の前日各 Kelompok で 1 a 刈の収穫調査を行った。その結果は下記の通りである。

これによると Kelompok 別の最高平均単収は 8.5 ton/ha 最低平均単収は 5.3 ton/ha であった。尚 16 Kelompok の平均は 6.8 ton/ha であった。

又各 Kelompok の個人別単収の分散は最も良いもので 46.4 最も悪いもので 288.4 となった。

平均単収をあげることはこの事業の目的ではあるがしかし単に平均単収をあげるのではなく分散の少ないもの即ちすべての人々の収量が平均値に近くなっていることが必要である。

今回の例では 1 Kelompok 内の単収の間に甚しい処では 2 倍以上の差があった。この差を出来るだけ小さくすることが必要である。

Kelompok	組合員数	1 a 刈数	平均収量 ton/ha	最高収量 ton/ha	最低収量 ton/ha	分 散	個人別平均単収 ton/ha
3 / I	14	20	7.17	10.2	5.5	99.0	7.17
16 / I	20	40	7.31	9.5	5.6	69.7	7.25
21 / I	17	22	7.11	11.8	4.7	231.0	7.08
12 / II	13	24	6.92	8.3	4.8	89.3	6.72
27 / II	15	16	7.38	10.0	4.5	208.3	7.17
36 / II	12	23	6.57	9.5	5.2	118.6	6.27
7 / III	17	26	6.67	10.3	5.0	122.8	6.56
23 / III	15	23	5.83	8.7	4.5	94.8	5.81
35 / III	16	24	5.43	8.2	4.5	46.4	5.44
30 / III	14	23	5.30	8.3	3.0	218.9	5.41
2 / IV	16	27	7.26	10.9	4.3	206.7	7.19
5 / IV	16	20	6.57	9.9	3.8	214.0	6.33
39 / IV	20	20	6.62	13.2	5.1	288.4	6.62
4 / V	21	22	6.85	9.6	4.6	90.4	6.93
13 / V	20	21	7.31	10.4	4.6	218.0	7.63
16 / V	15	20	8.50	10.3	6.5	107.5	8.49
計	261	371	6.80				6.72

(註)

1. 1 a刈は全農家必ず1ヶ所は行うこと。
2. 20 a以上所有農家は20 a毎に1ヶ所行うこと。
3. 1 a刈の場所は中庸の所を選び畦畔から2株おいた中央部で行うこと。
4. 収量は調整済みの生稈の収量である。
5. 平均収量は1 a刈の総平均収量である。
6. 個人別平均単収はKelompok組合員の平均単収である。

### 3 協同作業

Demo Farm事業の目的の1つとして協同作業があげられる。Indonesiaでは古来gotong royongなるものが発達して一見協同作業も容易に行なわれるものと考えられていたが必ずしもそうでなかった。

Demo Farmでは共同苗代共同防除、共同田植等を中心として指導したが技術指導の頃でも説明したように共同苗代すら1部には完全には実行されなかった例もある。

共同防除については貸与機械が各Kelompok社1台としたので完全に協同作業が実行された。又1部の農家では普及員或は他の組合員には知らせずこっそり肥料を購入して施用したらしきものもあったようである。

今後機会がある毎に協同作業の趣旨、有利性等を徹底させる必要がある。

### 4 Demo Farm 評価成績

今回のDemo Farm事業は実施直前に行なわれたKey Farmer等の研修の際彼等にこれを評価し最も成績の良好なKelompokについては賞品を進呈することを公示した。

評価の採点の基準は

#### ① 苗代期 30点満点

- |         |         |         |              |
|---------|---------|---------|--------------|
| a、品種の統一 | b、種子の予措 | c、苗代の形状 | d、苗代施肥       |
| e、播種    | f、かんがい  | g、苗代防除  | h、田植前の苗の生育状況 |
- についてそれぞれ採点を行った。

#### ② 本田期 50点満点

- |              |        |       |            |
|--------------|--------|-------|------------|
| a、耕記の状況      | b、栽植密度 | c、田植深 | d、栽植本数     |
| e、基肥         | f、追肥   | g、防除  | h、出穂期の生育状況 |
| i、ヒエ、異品種の抜取り |        |       |            |
- についてそれぞれ採点した。

上記の採点に当ってはPerjan Tani Makmur "Tjihea" の Biro Penyeluhan の普及員が個人別に採点し各Kelompok 毎にその平均値を取った。その結果最高66点最低55.5点となった

③ 収 量 20点満点

収量はKelompok 総平均収量から

8 ton/ha 以上	20
8 - 7 ton/ha	15
7 - 6 "	10
6 ton/ha 以下	5

とし更にこれを分散を計算した処130以下と200以上に大別されたので130以下については1.0 200以上については0.6を上記得点に乗じて成績とした。その結果最高20点最低3点となった。

④ 協同作業 20点満点

協同作業については採点基準を作る事がむづかしかったのでPerjan Tani Makmur の関係者の合議の結果として各Kelompok を採点した。この結果は最高20点最低8点となった。

⑤ Kredit 返済状況 10点満点

4月30日現在の返済状況をそのまま得点とした。即ち完済のもの10点80%返済のもの8点50%返済のもの5点とした。

以上130点満点として採点の結果は別表の通りで最高は16/VKelompok の107点最低は23/IIIKelompok の77.5点となり最高最低の差は30点となった。

最低の77.5点はやっと及第点(100点満点で約60点)に達している。

我々事業実施担当者としては全Kelompok が少くとも100点以上得点してほしかった。

今後指導の徹底により次回には全Kelompokが我々の希望得点に達するように努力しなければならぬことを反省して報告とする。

1972年5月10日

西ジャワ州食糧増産技術協力チーム

船 田 正 明

Kelompok	栽培技術	協同作業	收 量	Kredit	計	順 位
3 / I	63.5	16	$15 \times 1.0 = 15$	10	104.5	2
16 / I	63.5	12	$15 \times 1.0 = 15$	7	97.5	4
21 / I	65.5	8	$15 \times 0.6 = 9$	6	88.5	11
12 / II	66.0	16	$10 \times 1.0 = 10$	10	102.0	3
27 / II	60.5	14	$15 \times 0.6 = 9$	9	92.5	8
36 / II	58.5	18	$10 \times 1.0 = 10$	7	93.5	6
7 / III	60.0	14	$10 \times 1.0 = 10$	9	93.0	7
23 / III	56.5	12	$5 \times 1.0 = 5$	4	77.5	16
35 / III	61.5	20	$5 \times 1.0 = 5$	10	96.5	5
30 / III	62.0	20	$5 \times 0.6 = 3$	5	90.0	10
2 / IV	55.5	16	$15 \times 0.6 = 9$	5	85.5	13
5 / IV	63.5	14	$10 \times 0.6 = 6$	3	86.5	12
39 / IV	58.0	16	$10 \times 0.6 = 6$	3	83.0	14
4 / V	56.5	16	$10 \times 1.0 = 10$	10	92.5	8
13 / V	56.0	12	$15 \times 0.6 = 9$	4	81.0	15
16 / V	60.5	18	$20 \times 1.0 = 20$	9	107.5	1

## 資料 5

### 1972/73年雨期作 Demo Farm成績に関する報告

はじめに

今回の Demo Farm 参加 Kelompok は前期 17 Kelompok 中 I 地区 (39/III) が Mentek 多発地のため中止し新規 15 地区が参加したので合計 31 Kelompok であった。

新規 Kelompok 中 I 地区 (37/III) は Ketua が 39/III の sekretaris であるので他の新規 Kelompok とは同一条件ではない。

即ち

経続地区	16 地区	217 名	72,624 ha
新規地区	15 "	212 "	76,213 "
計	31 "	429 "	148,837 "

である。

前期即ち 1972 年乾期作が異状早魃であり特に乾期がおそくまで続き雨期に入ったのは 11 月からであったため今雨期作の作付は例年より約 1 ヶ月以上のおくれを見た。

しかし今期の天候は比較的順調であったが 1~2 の Kelompok で小球菌核病が多発して大減収となった他 ganjar が昨年の雨期と同様に大発生を見たが協同防除の結果その被害も僅少であった。

#### 1. 苗代について

一般に苗代の生育は良好であった。しかし新規地区は勿論経続地区にも協同苗代でなく個人で作ったものがあったのは残念であった。

Demo Farm の基本的目的は新しい栽培技術の習得と協同作業の習得にあるのであるから協同苗代を実行しないことは既に Demo Farm の目的の半分を失ったことになる。

次回から必ず実行されることを希望する。

又雨期作では ganjar の大発生を予想されたので苗代期にその防除を完全にするため diazinon 液剤を 4 回散布することを注意したがそれを実行せず後に本田に於てその大発生を見たものがあった。

苗代面積は本田に比して非常に小さいので防除も簡単でありここで防除を完全に行えば本田に於ての発生が少くなるのでより効果的である。又本田に於ての液剤の散布はかえって天敵をも補殺することになるので逆の効果となるので注意を要する。

## 2 本田について

前回にも報告したが苗代跡の田植が良くないものがあった。即ち乱雑で深植である。特に個人苗代跡にその状況が甚しい。

ganjar が生育初期に発生した。この状況は苗代期に防除を計画通りに行なわなかった Kelompok 程甚しかった。

今期は特に ganjar の多発を予想されたので事前に各 Kelompok に苗代期に播種後 10. 12. 15. 19日目の4回薬剤散布をして(diazinon 液剤)苗代に於て幼虫を駆除して本田に持ち込まないよう文書で注意しておいたが一部の Kelompok で実行されず被害を大きくしたのは残念である。Ketuaは配布された注意書は良く読んで組合員にもよく知らせなければならぬ。又P.P.L.も毎日指導に行っているからよく実行させるように指導しなければならぬ。

ganjar の被害は最高分けつ期まででそれ以後の発生は生産量には影響はしない。

又一部に小球菌核病が発生し特に1~2のKelompok ではその被害が甚しかった。菌核病に対する特效薬はあるが入手困難で且つ高価であるので病気がかかってからでは手当が困難であるから予防策を立てなければならぬ。

この病気の伝播の重なるものは

- ① 収穫期或は収穫薬から落ちた菌
- ② 被害を受けた薬に残った菌

又Kの不足の水田には発生し易い。

この予防法は

- (1) Nばかり施肥しないこと。出来るだけKを使用すること。又腐敗していない糞は使用しないこと。
- (2) 中干を実行すること。
- (3) 最高分けつ期に深水にしないこと。排水を良くすること。
- (4) 穂ばらみ期以後は水を充分にやること。

収穫前は水田を乾すこと。

- (5) もし農薬(Kitazin P 又はInozin)が手に入ったら穂ばらみ期、穂ぞろい期に施用すること。

である。

又病気の発生した水田或はその直下流には次期の苗代を作らないこと。

病害株は焼却する方がよい。

### 3 収穫について

31 Kelompok は各農家毎に1aの標本刈を行った。各農家はその面積20a或はそれ以下の耕作面積のものは1ヶ所、20a以上の農家は20a毎に1ヶ所の標本刈とした。

その結果平均収量及其の分散の状況は下記の通りである。

Demo Farm 参加31 Kelompok 148,837 ha 標本刈数655、平均単収6.9 ton/ha(未乾燥調整済み米)各Kelompok単収の分散は85であった。

この結果を見れば今期のDemo Farm の成績は良好のように見えるが31 Kelompokの中には平均単収が6.0 ton/haを下廻る地区が3 Kelompokあった。如何なる理由があっても平均単収が6.0 ton/haを下廻るようなことはDemo Farmに参加した意味がない。これら3 Kelompokはいづれも今期初参加のKelompokであり次回には少くとも6.0 ton/ha以上の結果を得るようにしてほしい。

これについてはKetuaは勿論P.P.L.も充分指導を密にしてほしい。

又個々の農家を見るに最低2.3 ton/haというのがあった。小球菌核病の被害の最も甚しい所ではあるがこのような例はDemo Farm開始以来始めてのことである。local品種の収量より下廻る収量を得たのではPelitaを植え肥料農薬を充分に使用することにより農民は大損害を受けたことになる。一方には10 ton/haを上廻る結果を得現に家があるにもかかわらずこのような結果を生ずるのは本人は勿論KetuaもP.P.L.も非常にはずかしいことである。

次回からは個人農家もKelompok平均も最低6 ton/ha以上は絶対に確保するように努力されることを希望する。

しかしこれ等の特例を除くと一般には成績は良好で特に16/V Kelompok Mahpudは平均単収9.0 ton/ha 分散1.0と云う成績をあげている。これは現在のDemo Farm計画としては最高水準である。

分散が100以上の地区を見るとその大部分が新規地区である。これはKetuaの理解が不足したことが原因ではないかと思う。

新規地区でも13/II Kelompok Oyoy等は平均単収8.1 ton/ha分散4.1という高水準の結果を得ているのを見てもKetuaのDemo Farmに対する理解度が成績を大きく左右すると思われる。P.P.L.の普及指導の責任は重大である。

No	Kelompok 名		面 積 ha	標 本 数	平均单収 ton/ha	分 散
	No	betua 名				
1	1/I	Moch. Adin	4,536	20	8.1	37
2	3/I	Parid	4,144	19	6.3	20
3	4/I	Kodir	2,428	19	5.2	84
4	8/I	Sadili	6,151	26	4.2	315
5	16/I	Emid	5,859	22	7.7	254
6	21/I	Il. Roup	3,350	11	7.6	157
7	20/II	I. Ruhijat	4,034	17	7.2	14
8	4/II	Adang	6,817	29	7.1	140
9	13/II	Oyoy	5,642	23	8.1	41
10	27/II	Hadi	5,058	24	7.0	56
11	8/II	O. Kosasih	5,307	24	6.1	189
12	26/II	Djaenudin	4,772	21	7.1	89
13	12/II	Obing	6,139	26	7.3	56
14	36/II	Sudji	5,076	21	6.4	74
15	31/II	Baeni	4,767	20	5.2	5
16	34/II	Uyok	5,707	27	6.3	5
17	7/III	Karta	5,036	23	7.9	51
18	24/III	Mansur	5,695	23	6.9	169
19	35/III	Wikarta	3,601	19	6.5	141
20	36/III	Darta	4,183	21	6.6	55
21	37/III	H. Mukarom	4,635	15	7.3	118
22	37/IV	Adid	3,584	13	6.7	88
23	27/IV	Mustarom	4,635	34	6.6	100
24	20/IV	Dasem	5,618	25	6.5	126
25	4/V	Ija	5,563	23	6.5	130
26	5/V	Handa	5,210	23	7.4	104
27	2/V	Oda Suhada	1,874	11	7.3	24
28	4/V	Adang	5,941	27	6.9	134
29	2/V	Adjudin	2,956	10	7.1	162
30	13/V	Umin	4,905	22	7.7	29
31	16/V	Mahpud	3,678	15	9.0	1
計			14,883.7	655	6.9	85

#### 4 評 価

前2回に準じて1972/73年雨期作 Demo Farmの評価をした結果が下記の表である。

即ち

① 技術 苗代30 本田50 計80

② 収穫 1a刈収量20×分散1.0 計20

1a刈の結果より

8 ton/ha 20 7.9~7.0 ton/ha 18

6.9~6.0 ton/ha 15 5.9 ton/ha以下 5

分散 0~ 30=1.0 31~ 60=0.9

61~100=0.7 101~200=0.4

200以上=0.2

③ 協同作業 50

④ Kredit の返済 50

計200点満点で評価した。

その結果は最高170 最低84で100に満たなかったものは2Kelompok 又120に満たなかったものは12Kelompokあったがその最大の原因がKredit の返済状況が悪かった結果であることは甚だ残念である。

一方には完済しているKelompok も数Kelompok あるにもかかわらず30%も返済していないものがあるということはその理由がわからないがこれは栽培技術とか協同作業とかいう Demo Farm の目的以前の問題である。

農民が義務を遂行することが将来Himpunan Tani 或は農協育成の重要Pointとなるので十分な指導を行って1日も早く完済させ次回からは自ら進んで返済するような気風になるよう希望する。

1973年7月30日

船 田 正 明 今 西 功

1972/73 雨期作 Demo Farm 評価表

No	Kelompok 名		技 術	収 量			協 同 作 業	Credit 返 済	計
	No	ketua 名		標本刈	分 散	計			
1	1/I	Moch. Adin	69	20	0.9	18.0	35	46	168.0
2	3/I	Parid	55	15	1.0	15.0	25	48	138.0
3	4/I	Kodir	53	5	0.7	3.5	20	41	117.5
4	8/I	Sadili	49	5	0.2	1.0	20	14	84.0
5	16/I	Enid	61	18	0.2	3.6	25	19	108.6
6	21/I	H. Roup	57	18	0.4	7.2	25	19	108.2
7	20/II	I. Ruchijat	67	18	1.0	18.0	35	50	170.0
8	4/II	Adang	62	18	0.4	7.2	30	31	130.2
9	13/II	Oyoy	69	20	0.9	18.0	35	47	169.0
10	27/II	Hadi	69	18	0.9	16.2	35	42	162.0
11	8/II	O. kosasik	65	15	0.4	6.0	30	15	116.0
12	26/II	Di aenudin	66	18	0.7	12.6	30	31	143.6
13	12/II	Obing	69	18	0.9	16.2	35	24	144.2
14	36/II	Sudji	62	15	0.7	10.5	30	50	152.5
15	31/II	Baeni	54	5	1.0	5.0	20	31	109.0
16	34/II	Uyok	53	15	1.0	15.0	20	22	110.0
17	7/III	Karta	58	18	0.9	16.2	30	44	148.2
18	24/III	Mansur	53	15	0.4	6.0	25	34	118.0
19	35/III	Wikarta	57	15	0.4	6.0	30	50	143.0
20	36/III	Darta	53	15	0.9	13.5	25	38	129.5
21	37/III	H. Mukar om	59	18	0.4	7.2	30	50	146.2
22	37/IV	Adid	58	15	0.7	10.5	30	21	119.5
23	27/IV	Mustar om	66	15	0.7	10.5	35	40	151.5
24	20/V	Dasem	62	15	0.4	6.0	35	41	144.0
25	4/V	Olja	57	15	0.4	6.0	25	28	116.0
26	5/V	Handa	52	18	0.4	7.2	20	11	90.2
27	2/V	Ada. Sahada	49	18	1.0	18.0	20	18	105.0
28	2/V	Adjudin	66	18	0.4	7.2	30	40	143.2
29	4/V	Adang	65	15	0.4	6.0	30	30	131.0
30	13/V	Umin	52	18	1.0	18.0	30	46	146.0
31	16/V	Mahpud	67	20	1.0	20.0	30	13	130.0

## 資料 6

### Himpunan Tani に関する報告

#### 1 はじめに

Proyek Tani Makmur Oihea の目的は農民の稲作栽培技術を向上し水稻を増産するとともに個々の力では弱い農民の力を協同作業を通じて集結し健全な農協を育成し依って農民の生活水準を向上せしめようとするものである。

この目的達成のため1971/72年雨期作以来2 seasons 地区内にCreditを以ってDemo Farmを実施し現在第3 seasons目として新規経統併せて31KelompokのDemo Farmを実施中である。

Demo Farmの目的とする処は上記Proyek Tani Makmur Oiheaの目的達成のための第1段階として協同作業の育成を基盤として農業技術を指導し増産を期待するとともに更に協同作業の育成により農民の力を集結し協同組合育成の基礎としようとするものである。

Demo Farm中には既に所期の目的を達成しつつあるものもあるが又遠く及ばないものもありその現状は一様でない。

遠く及ばないものについては更にDemo Farmを続けて基礎的な指導を行うと同時に進んでいるものについてはおこなわれているものを待つことなくそれを数個結合してより強固な組織にして何か単純な事業を行なわせることにより協同作業をより強固なものとし経済力を増加させたい。

これは農協育成の第2段階であり又おこなわれているDemo Farmに対する刺戟にもなる。

この第2段階をHimpunan Tani と称する。

1972/73年雨期作に於てはそのModelとして1ヶ所を選定してHimpunan Tani を組織させこれを濃密に指導育成したい。

このHimpunan Tani は将来Oihea 全域に及ぼし更に数個を集めて複合事業を行なせ最終的にはOiheaを一丸とした農協にまで発展させたい。

#### 2 Himpunan Tani 育成の手段

Himpunan Tani は5~10個のDemo Farmを以って組織するがこれを組織するに当っては必ず一つの単純な事業を行なわせる必要がある。

単に精神的なものだけを基盤として組織することはそれが能動的な活動をする意欲を失なわせ名目だけのものになってしまう。

この単純な事業とは単一Kelompokのみでは力がたりなくむづかしいが数個のKelompok が力を合せれば出来る事業でなければならない。

この力とは人の能力、経済力の両者を含めてのことである。

これがDemo Farm 指導と相違する点で特に経済的、市場的な指導を充分行なわなければならない。

今回Model としてOihea に組織させようとするのは小型Rice Mill を以って生産物を精米として市場に出す事業を行なわせるものである。

Oiheaに於て今後育成するHimpunan Tani がすべてこの小型精米機による方式と決ったものではない。

これは一つの例であり単純な事業とは他に色々考えられる。

### 3 地区の選定

今回のHimpunan Tani の結成のための地区の選定に当っては下記の事項について検討を行った。

- a Himpunan Taniに参加するDemo Farm は距離があまり離れていないこと。
- b Demo Farm内の協同作業の状況が良好であること。
- c 前回までのKredit の返済状況が良好であること。
- d Demo Farm の組合員が引継ぎDemo Farmに参加していくことを希望していること。
- e Demo Farmの運営がうまくいっていること。
- f 耕耘機の利用が良いこと。

以上の中でb-eは取まともて見れば組合長の組合員に対する指導統制力がすぐれていることで組合員が組合長を信じてよく指導に従っていることを示している。

### 4 Himpunan Tani の指導

Himpunan TaniはOihea としては最初のことであり農協育成への第2段階である。

今回は地区のModel として実施するのでこれが成否は今後のこの事業に対する影響は重大であるので必ず成功させなくてはならない。

特に経済面に於ける指導は重要である。

単純な事業といっても市場性、原料の集積、機械の運転の平均化、収入支出の明確化等経済的な指導面はたくさんある。これは又将来の農協指導の基本ともなる。

Indonesia の過去の農協育成の失敗に鑑みその指導には充分留意しなければならない。

指導の最高責任者は勿論場長であるが現場責任者はPerjan Oihea の Staffが担当し普及部もこれに全面的に協力することが必要である。

#### 5 供与機械

このHimpunan Taniには一般のDemo Farmに貸与されている機械の外能力200Kg/時の佐竹の精米機一式を供与する。

この供与条件は別に決める。

精米機の設置費、運転に要する諸経費及修費等はHimpunan Tani の負担とする。

#### 6 Himpunan Tani の規約案

別添の通り

#### 7 Himpunan Tani結成までの準備(経過)

##### (1) 第1段階

1972年12月4日のOihea に於ける連絡会議出席者

西ジャワ州                      Didi , Ashar

Oihea                      Wazilir 場長代理外Staff全員

専門家                      管生、船田、今西、徳永、若林、小川、芳賀

に於て構想を説明し同意を得て直ちに地区の選定に入った。

##### (2) 第2段階

現在進行中のDemo Farm新規15経統16地区中より前記3の条件を調査し第1候補地としてWilaya IIのKelompok 8. 12. 13. 26. 27 ⑤ 5 KelompokをHimpunan することを考えた。

この中12.27は経統地区であり前記諸条件より見て12は上の上、27は上の下に ranking される。又これらのKelompok は各々殆んど境を接している。

これらの候補地以外にもWilaya Iの1.3は経統地区では上位にrand されるが附近に良いDemo Farmがなく5Kelompok 以上をHimpunするには距離が遠すぎる等の理由で今回のrice mimiIによるModel Himpunan Tani は前記Wilaya II の kelompok 8. 12. 13. 26. 27 を第1候補とした。

1973年1月8日今年最初のOihea に於ける連絡会議

出席者

西ジャワ州                      Ruhijat 普及課長Didi 外2名

普及局                      Tonton , Rochayat

Oihea Dedy 場長外 staff 全員

専門家 船田、今西、徳永、若林、小川、芳賀（管生団長は棉国中で欠席）

に於て同意を得て第3段階に入った。

(3) 第3段階

Oihea の staff と協議の結果第3段階としては調査の対照を①Kelompok

②Market / Pasar ③附近の既存のrice mill の状況の3項目とし

① Kelompok は

- a Himpunan の可能性
- b 自己資金徴達の可能性
- c Kelompok の管理状況
- d 農業技術の理解の程度

② Market / Pasar は

最寄のOiranjangの米のMarket の状況、Oianjur のMarket の状況、  
取引業者等を調査する。

③ 附近のrice mill については

能力、稼働日数、賃摺料等

④ rice mill の経済性を検討する。

このことにつき意見の一致を見て1月17日の西ジャワ州との会議を待った。

しかしこの会議には州政府からAskarのみしか出席せず決定することが出来なかつたので当方よりAskarに説明し彼が西ジャワ州のstaffには説明することとした。  
その結果は1月22日に又会議を持って知らせることとした。

(4) 第4段階

1月22日の会議にも州政府よりはAskar のみの出席であったが彼の話では前回の件は州政府に於ても了承の由であったとのことであったので今後の行動のschedule を作成した。

即ちこの準備期間を6週間とすることWilaya II の Kelompok 8. 12. 13. 26. 27 を実施区とすることとした。

第1週は1月23日より29日までとする。

Himpunan Tani の中心となるべき組合長Obing ( Kelompok 12 ) Oyoy ( Kelompok 13 ) の2名に充分趣旨を徹底させること。

このHimpunan Taniはこの2名の発意で任意団体として結成させること。

以上に重点を置く

第2週は1月30日より2月5日までとする。

この週に他の3 Kelompok の組合長にObing, Oyoy から説明し同意を求める。  
又1日組合長次席全員1ヶ所集ってObing, Oyoyの司会で話し合いをする。これにはPerjan よりも出席することとした。

(この会合は2月1日Oyoy の自宅で持たれPerjan よりSyukri, Amin Subadi 及船田、今西が出席し組合長、次席も10名全員出席し熱心に討議、全員一致でこのHimpunan Tani 結成を議決した。この予算として各Kelompok 粳2 ton (1972/73年雨期作1 ton 1973年乾期作1 ton )を支出することを併せて決定した。)

第3週は2月6日より12日までとする。

この週は各組合長、次席は自己のKelompokの組合員によく説明し理解を深めること。

第4週は2月13日より19日までとする。

この週は更に組合員によく認識させるため各Kelompok 毎にPerjan の staffも参加して話し合いを行うこと。

第5週は2月20日より26日までとする。

この週は再び各Kelompok の組合長、次席とPerjan の staffが会合しHimpunan Tani 設立の準備をする。

第6週は2月27日より3月5日までとする。

Himpunan Tani 設立の全ての準備を完了する。

尚Himpunan Tani の発足は予算の準備の出来る雨期作収穫後の4月20日を予定日とする。

以上の決定に基づき本計画は目下予定通り進行中である(1973年2月6日現在)

又此の間にPerjan の staffにより

- ① 附近のrice millの運営状況
  - ② Gianjur, Oiranjang のMarketingの状況
- 等を調査しrice mill 設置後の運営に不安のないようにする。

#### 8 その他

Rice millの運営は200日稼働とし1日7時間2 ton の粳を精米することを基本

とする。

従って1 season 200 ton の粃を必要とするがHimpunan Tani 参加の5 Demo Farmからは100~120 ton の粃しか生産されない。組合員中にはDemo Farm 以外にも水田を所有しているものもあるのでそれを合計すれば概ね130 ton 位の粃は生産される不足70 ton 前後の粃の集荷はどうすれば良いか？

最も良いのはこの数量の粃を収穫期に購入することであるが設立当初は予算も少く不可能なことであるので賃摺にする。他はない。附近一般のrice millの運営を見ると収穫期にはfull運転するが2ヶ月3ヶ月すると原料不足で盆んど運転していないものが多い。これでは経済的な運営が出来ないので運転予定日はいずれもfull 運転出来るようにManagement の指導が必要である。

又粃100Kg当の精米に要する経費はfull 運転の場合は117 R.Pであるが附近のRice millの賃摺料は200 R.PでHimpunan Taniとしては117~200 R.Pの間で調整する必要がある。

1973年2月15日

Perjan Tani Makmur Oihea

船 田 正 明

資料 7

Himpunan Tani 規約案

(Cihea に於ける実例)

1. このHimpunan Tani は“Himpunan Tani mulia” Tani Makmur Ciheaと称する。
2. Himpunan Tani Mulia は Cihea 地区内のWilaya IIKelompok 8. 12. 13. 26. 27 の組合員を以って組織する。
3. Himpunan Tani Mulia は組合員の農業技術向上、所得の増大のため下記の事業を行行。
  - a 精米
  - b 各Kelompok 毎のDemo Farm 参加
  - c その他この項に必要なこと。
4. Himpunan Tani Mulia はその運営のため組合長、次長、会計、総務、事業部長、監査及び委員、代議員を置く。
5. 組合長、次長、会計、事業部長、及び総務は各1名とし関係KelompokのKetua又は sekretaris より選出する。
6. 委員は関係Kelompok の ketua 及 sekretaris を以ってこれに充てる。
7. 代議員は各Kelompokより4名宛選出する。
8. 役員の任期は1ヶ年とし再任はさまたげない。
9. 組合長はHimpunan Tani Mulia を代表し業務の責任者となる。
10. 次長は組合長事故ある時は代理する。  
又委員会、代議員会を司会する。
11. 会計は組合長の指示により会計を司る。又別に定める様式により毎日の収入支出を記載する。
12. 総務は組合長の指示によりHimpunan Tani mulia の一切の事務を司る。
13. 事業部長は組合長の指示により精米工場の現場責任者となりその運営に当る。
14. 監査はHimpunan Tani mulia の会計、業務を監査し又必要ありと認めたときは組合長に意見を述べる。
15. 委員会、代議員会は組合長が召集する。
16. 組合長は少くとも毎月1回委員会を召集し業務の運営について協議しその議決を得なければ

ばならない。

17. 組合長は少くとも年1回代議員会を召集し毎年の決算、次年の予算、事業の経過及計画を討議し承認を得なければならない。
18. 委員会、代議員会は総数の $\frac{1}{2}$ 以上の出席で成立する。
19. 委員会、代議員会の議決は出席の $\frac{1}{2}$ 以上の賛成で成立する。
20. 組合長は委員の $\frac{1}{3}$ 或は代議員の $\frac{1}{3}$ 以上の要求があれば委員会、或は代議員会を開かなければならない。
21. 組合員の参加或は脱退は委員会の承認を必要とする。
22. 会計簿は組合員の要求があればいつでも提示し、会計はその説明をしなければならない。
23. 精米工場には運転日誌を常備し毎日の運転について別紙様式により記載しなければならない。
24. 事業による年間の収益、損失は組合員全員の所得又は損失となる。
25. 組合員は事業を行うため出資しなければならない。  
事業の収益、損失の分配は出資額の多寡に比例して行う。
26. 組合員が委員会の承認を得て脱退するときは出資金は回収出来る。
27. 組合長は必要に応じ職員を任免出来る。  
新に職員を任用するときはHimpunan Tani Mulia の組合員より任用する。

資料 8

Tani Makmur Oiheaの今後の進め方

Tani Makmur Oiheaの普及関係は既に報告済みの通り1971/72雨期作以来  
今期で3 season に入り Demo Farm も現在31 Kelompok が実施している。

又今期は1 Himpunan Taniが結成されたが今後のTani Makmur Oihea事業  
は下記の年次計画を以って農協育成を完了させたい。

1. 事業当初より現在まで

1971/72雨期作	Demo Farm	16
1972 乾期作	"	17
1972/73雨期作	"	31

Himpunan Tani A

(Wilaya II Kelompok 8, 12, 13, 26, 27)

(以下 Demo Farm は D.F. Himpunan Tani は H.T と書く)

2. 現在以後

1973 乾期作	D.F 新規	4
	H.T	B
	(Wilaya III Kelompok 35, 36, 37+新規2)	
1973/74雨期作	H.T	C
	(Wilaya I Kelompok 1, 3, 8, +新規2)	
	D.F 新規	7
1974 乾期作	H.T	D
	(Wilaya II Kelompok 20, 4, 5, 16, 17)	
	H.T	E
1974 乾期作	(Wilaya IV Kelompok 2, 4, 5 +新規2)	
	D.F 新規	5
	H.T	F
1974 乾期作	(Wilaya V Kelompok 13, 16 +新規3)	
	D.F 新規	7
	H.T	G
	(Wilaya I Kelompok 16, 21, +新規3)	

		H.T.	H
		(Wilaya V Kelompok 37 +新規4)	
		Unit H.T	1
		(H.T.A. + C + D)	
1975	乾期作	D.E 新規	7
		H.T.	1
		(Wilaya V Kelompok 2. 4. +新規3)	
		H.E.	J
		(Wilaya III Kelompok 36. 34. 31+新規2)	
1975/76	雨期作	D.E 新規	12
		H.T.	K
		(Wilaya III Kelompok 7. 23 +新規3)	
		H.T.	L
		Unit H.T.	B
1976	乾期作	D.E 新規	8
		H.T.	M
		H.T.	N
		Unit H.T.	III
		Unit H.T.I. + H.T.J.	
1976/77	雨期作	D.E 新規	4
		H.T.	O
		H.T.	P
		H.T.	Q
		Unit H.T.	IV
		Unit H.T.	V
1977	乾期作		
		Unit H.T. + H.T.	
1977/78	雨期作		
		Unit H.T. 強化	

1978 乾期作

Unit H.T 強化

1978/79雨期作

能動的農協結成

以上の計画に基づく Demo Farm, Himpunan Tani, Unit Himpunan Taniの総数は

D. F	85.....± 4 2 5 ha
H. T	17
Unit H. T	5

でありTani Makmur Oihea 837 ha中残は412 haである。この面積はDemo Farm 或はHimpunan Tani実施中に出来るだけ面積の増加を計ることにより消化するものとする。

但し若干の面積が農協結成時に残るものと思われるがこれは農協結成に消化するものとする。

Demo Farmに対するCredit はHimpunan Tani 結成後1ケ年後に止める(その時は既にHimpunan Taniの自己資金でDemo Farmは経営出来る。)

この計画をよりよく成功させるため

- a 農業中学校3年生にTani Makmur, Himpunan Taniに関する教育課目を加えること。
- b 小学校の上級生にTani Makmurの大意を教えること。
- c 部落毎の農民研修を行いTani Makmurの意義を教えること。

等農民特に青少年の教育を充分に行うことが必要である。

Himpunan Taniの事業としては小型rice millの他にマッシュルームの栽培アヒルの飼育その他が考えられる。

Unit Himpunan Taniの事業としてはKiosが考えられる。

又現在直営で行なわれている耕耘機使用料徴集をHimpunan Taniに委任する。

更にPerjanに設置した大型Rice millが1ケ年になるにもかかわらず未だfull運転がなされていないがHimpunan Taniの中にはこれを利用するものも生ずるのでこれがfull運転実施は緊急の問題である。

又普及部の若い普及員を絶えず研修し知識を増させることも重要な問題である。

1973年3月2日

Perjan Tani Makmur Cihea

船 田 正 明



LII